

令和6年度

事業報告書

Annual report



学校法人 高田学苑

Takada Gakuen

Contents

法人の概要 . . . 2～10

建学の精神 / 教育方針 / 設置する学校、定員及び現員 /
役員・評議員 / 教職員数 / 組織構成図 / 校舎敷地及び建物等の概要 /
学生・生徒 志願者数推移 / 学生・生徒 在籍者数推移 /
学生・生徒 進路状況

事業実績の概要 . . . 11～15

理事会・評議員会・監事会・内部監査委員会の開催状況 /
監査法人監査報告 / 危機管理への取り組み / 夏期教職員研修会 /
教職員の健康管理体制 / 教職員の表彰 / 教職員の異動状況 /
給付型奨学金・授業料等減免（助成） / 短期大学入学金免除制度

教育活動の実績及び進捗状況

－高田短期大学－ . . . 16～34

時代・社会の変化に即応した取り組み
1. 学士力向上を目指した教育課程の展開
2. 主体性・協調性を育む短大生活支援
3. キャリア教育・キャリア支援の充実
4. 学生募集と高大交流事業
5. 外国人留学生支援について

地域への社会貢献事業

地域連携施設

仏教教育研究センター／育児文化研究センター／介護福祉研究センター

施設設備の整備事業の実績

－高田中学校・高等学校－ . . . 35～57

命の大切さを考える教育の推進 / スーパーサイエンスハイスクール /
ユネスコスクール / キャリア教育 / 部活動 / 危機管理・安全教育への取り組み /
国際理解教育推進 / 学校自己点検・学校関係者評価 /
教職員資質向上への取り組み（初任者研修、学内研修、中部私学研修、中堅研修など） /
生徒募集活動 / 施設設備の整備事業実績

財務の概要 . . . 58～68

資金収支計算書の概要（全体・短期大学・中高等学校）
活動区分資金収支計算書の概要
事業活動収支計算書の概要（全体・短期大学・中高等学校）
令和6年度補助金一覧表
貸借対照表の概要
財産目録

法人の概要

建学の精神

本学苑は仏教精神を基として宗教的情操を培い、人間性豊かな社会人を育成することを建学の精神としている。



教育方針

短期大学

本学では「教育基本法」ならびに「学校教育法」にのっとり、本学の建学の精神・教育の理念に基づいて、少子化・子育て困難、超高齢化、そしてIT化が進行する現代社会からの要請にこたえ、高度な専門知識や技術・技能を身につけて「やわらか心」で地域社会に貢献できる保育者、介護福祉士、オフィスワーカーを育成することを教育目標としている。



中・高等学校

真宗高田派の宗門立学校として、言行忠信・表裏相応を校訓とし、仏教教育による人間味の豊かさを深め、規律精神を基とした行動力の育成と基礎学力の充実錬磨につとめ、広い視野から社会に貢献できる人材の養成をめざした教育を行っている。また、中学校・高等学校一貫六年制コースを設置し、高い水準の学力と知的な生徒を育成している。



設置する学校、定員及び現員

- ◆ 高田短期大学 三重県津市一身田豊野 195
- ◆ 高田高等学校 三重県津市一身田町 2843
- ◆ 高田中学校 三重県津市一身田町 2843

(令和6年5月1日現在)

高田短期大学					
学科名	入学定員	収容定員	1年生	2年生	合計
子ども学科	150名	300名	145名	136名	281名
キャリア育成学科	100名	200名	111名	91名	202名
〔 オフィスワークコース	〔 60名	〔 120名	〔 70名	〔 59名	〔 129名
〔 介護福祉コース	〔 40名	〔 80名	〔 41名	〔 32名	〔 73名
合 計	250名	500名	256名	227名	483名

高田中・高等学校						
	募集定員	収容定員	1年生	2年生	3年生	合計
高田高等学校	570名	1,695名	578名	607名	577名	1,762名

(学則定数 730名)(3ヵ年計 2,190名)

	募集定員	収容定員	1年生	2年生	3年生	合計
高田中学校	190名	570名	195名	205名	197名	597名

(学則定数 240名)(3ヵ年計 720名)

役員・評議員

(令和6年5月31日現在)

理事		定数10名 実数9名	
区分	氏名	現職等	
第1号 宗務総長	増田 修一	真宗高田派 宗務総長	
第2号 学苑長 短大学長 中・高校長	梅林 久高	学校法人高田学苑 理事長（学苑長）	
	清水谷 正尊	高田短期大学 学長	
	福山 茂	高田中・高等学校 校長	
第3号 評議員	井村 正勝	井村屋グループ（株） シニア・フェロー	
	永井 玲子	医療法人永井病院 理事	
	志田 行弘	三重テレビ放送（株） 相談役	
	岩崎 克彦	医療法人思源会 理事相談役	
	松田 英明	三重牛セキ販売（株） 代表取締役社長	

監事		定数2名 実数2名	
区分	氏名	現職等	
監事	下津 和文	下津醤油（株） 代表取締役会長	
	山中 利之	山中利之税理士事務所 公認会計士・税理士	

評議員		定数21～25名 実数22名	
区分	氏名	現職等	
第1号 宗務総長	増田 修一	真宗高田派 宗務総長	
第2号 学苑長 短大学長 中・高校長	梅林 久高	学校法人高田学苑 理事長（学苑長）	
	清水谷 正尊	高田短期大学 学長	
	福山 茂	高田中・高等学校 校長	
第3号 法人職員	福西 朋子	高田短期大学 子ども学科長	
	野呂 健一	高田短期大学 キャリア育成学科長	
	眞岡 康光	高田中・高等学校 教頭	
	箕田 昭子	高田中・高等学校 教頭	
第4号 功労者	井村 正勝	井村屋グループ（株） シニア・フェロー	
	岩崎 克彦	医療法人思源会 理事相談役	
	千草 篤麿	（福）高田真善会 理事長	
	小柴 弥生	小柴産業（株）	
第5号 卒業者	松田 英明	三重牛セキ販売（株） 代表取締役社長	
	倉田 栄治	（株）津ドライビングスクール 代表取締役	
	伊藤 博康	（有）平治煎餅本店 代表取締役	
	稲田 直子	高田短期大学育児文化研究センター 学外研究員	
第6号 本山総務	弓削 弘嗣	（宗）真宗高田派総務	
第7号 学識経験者	永井 玲子	医療法人永井病院 理事	
	志田 行弘	三重テレビ放送（株） 相談役	
	雲井 敬	三重交通グループホールディングス 監査役	
	浜田 吉司	I Xホールディングス（株） 代表取締役	
	山田 瞳	楠井法律事務所 弁護士	

教職員数

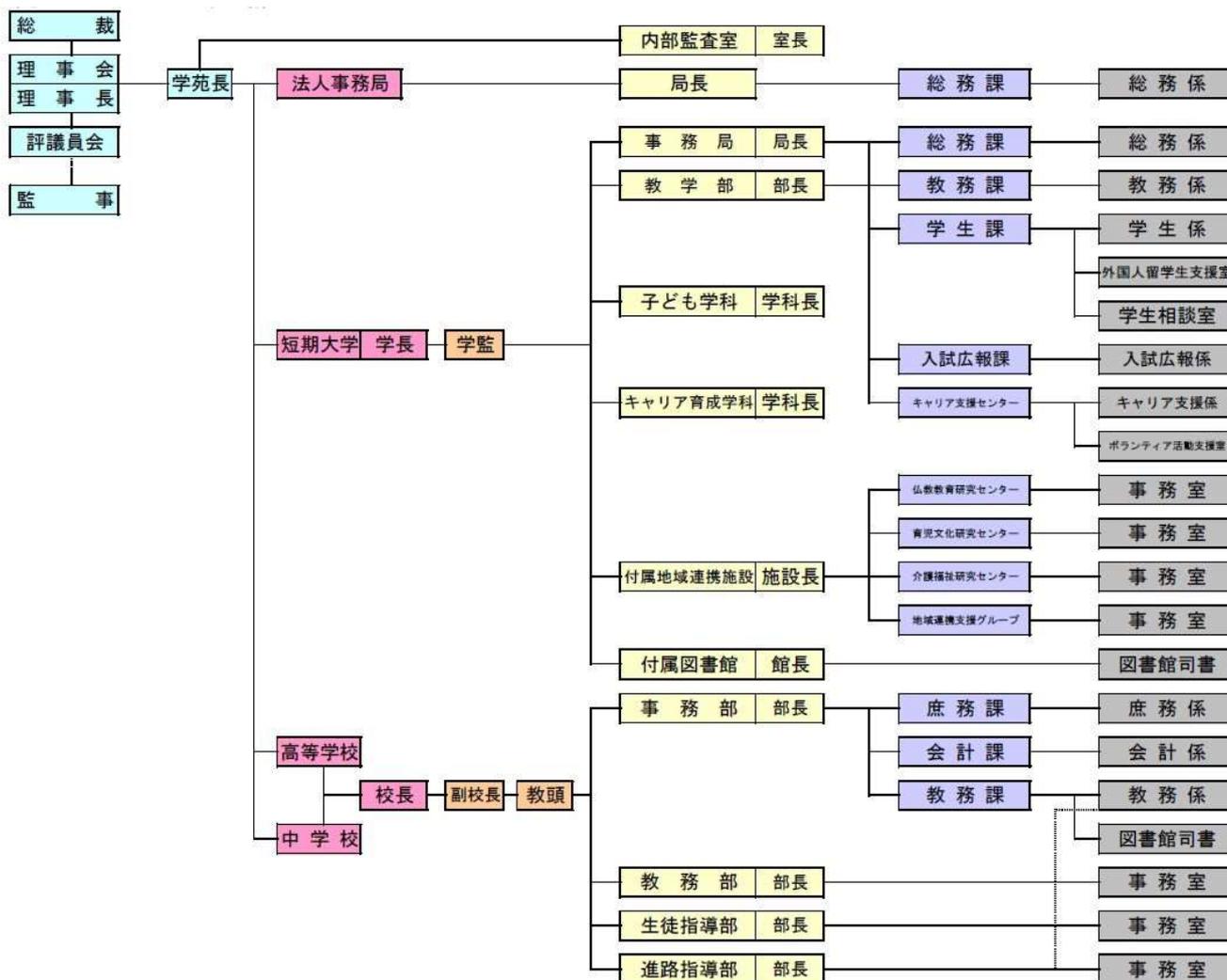
(令和6年9月1日現在)

		教 員		職 員		合 計
		本務教員	兼務教員 嘱託・非常勤 等	本務職員	兼務職員 嘱託・非常勤 等	
本 部		—	—	5名	4名	9名
短 期 大 学	子ども学科	15名	27名	15名	8名	65名
	キャリア育成学科	11名	38名	7名	7名	63名
	オフィスワークコース 介護福祉コース	〔 7名 〔 4名	〔 20名 〔 18名	〔 6名 〔 1名	〔 3名 〔 4名	〔 36名 〔 27名
高等学校		96名	37名	8名	15名	156名
中学校		31名	15名	3名	2名	51名
合 計		153名	117名	38名	36名	344名

(注) 学苑長は学苑本部の本務職員に、短大学長は子ども学科の本務教員に含む。

また、短大の兼務教員数には非常勤講師の後期採用者も含む。

組織構成図



校舎敷地及び建物等の概要

区分	専用面積㎡	計面積㎡	所在地	権利の所属	備考	
短期大学用地	校舎敷地	7,399	7,399	津市一身田豊野	自己所有	
	運動場用地	5,921	5,921	〃	〃	
	学生用駐車場用地	2,392	2,392	〃	〃	
	その他	3,279	3,279	〃	〃	緑地等
	計	18,991	18,991			
上記以外の学校用地	中学校校舎敷地	1,274	1,274	津市一身田町他	自己所有	内 借用588㎡
	高等学校校舎敷地	15,180	15,180	〃	〃	内 借用578㎡
	中学校運動場用地	14,481	14,481	〃	〃	
	高等学校運動場用地	49,169	49,169	〃	〃	内 借用3,275㎡
	その他	9,875	9,875	〃	〃	内 借用1,663㎡
	計	89,979	89,979			
合計	108,970	108,970				
校地以外の土地	61,913	61,913	津市芸濃町河内	自己所有	山林	

短期大学の部

区分	面積㎡	室数	構造	権利の所属
1号館	3155.60	33	鉄筋コンクリート造陸屋根5階建	自己所有
2号館	4163.75	38	鉄筋コンクリート造陸屋根4階建	〃
3号館	1743.64	15	鉄筋コンクリート造陸屋根3階建	〃
音楽棟	858.82	23	鉄筋コンクリート造陸屋根3階建	〃
図書館	803.19	8	鉄筋コンクリート造陸屋根3階建	〃
体育館	1983.96	15	鉄筋コンクリート造アルミニウム板葺3階建	〃
部室	31.68	2	鉄骨造2階建	〃
その他	16.98			〃
計	12757.62	134		

法人本部、高等学校・中学校の部

区分	面積㎡	室数	構造	権利の所属
本館	4721.83	36	鉄筋コンクリート造陸屋根7階建	自己所有
1号館	2722.10	25	鉄筋コンクリート造陸屋根3階建	〃
2号館	2155.05	21	鉄筋コンクリート造陸屋根3階建	〃
3号館	2609.31	13	鉄筋コンクリート造切妻屋根5階建	〃
4号館	3125.59	16	鉄筋コンクリート造切妻屋根5階建	〃
5号館	4113.15	29	鉄筋コンクリート造切妻屋根5階建	〃
管理棟1	207.23	5	鉄骨造ルーフィングぶき2階建	〃
管理棟2	98.88	4	鉄骨造ルーフィングぶき2階建	〃
厩舎棟	396.00	8	鉄骨造ルーフィングぶき2階建	〃
第1体育館	3819.78	16	鉄筋コンクリート造陸屋根3階建	〃
第2体育館	1889.03	12	鉄筋コンクリート造切妻屋根3階建	〃
第3体育館	2081.54	6	鉄筋コンクリート・鉄骨造合金メッキ鋼板ぶき2階建	〃
クラブハウス1	422.10	29	鉄筋コンクリート造2階建	〃
クラブハウス2	162.00	11	鉄筋コンクリート造陸屋根2階建	〃
施設管理棟	122.40	4	鉄骨造合金メッキ鋼板ぶき平屋建	〃
その他	152.38			〃
計	28798.37	235		
合計	41555.99	369		

備考（その他／機械室6.62㎡ 倉庫東、西47.95㎡ 渡り廊下67.50㎡ テニスコート部室30.31㎡）

学生・生徒 志願者数推移

(令和6年5月1日現在)

短期大学		R2	R3	R4	R5	R6
子ども学科		141	254	178	147	145
キャリア育成学科		105	107	103	121	142
	オフィスワークコース	71	81	64	65	70
	介護福祉コース	34	26	39	56	72
計		246	361	281	268	287
高等学校		R2	R3	R4	R5	R6
		3,064	2,787	2,885	2,894	2,770
中学校		R2	R3	R4	R5	R6
		544	554	569	546	593

学生・生徒 在籍者数推移

短期大学

(令和6年5月1日現在)

区分	項目	R2	R3	R4	R5	R6	
子ども学科	在籍生数	249	321	350	297	281	
	収容定数	300	300	300	300	300	
	充足率	83%	107%	117%	99%	94%	
キャリア育成学科	在籍生数	187	188	184	183	202	
	収容定数	200	200	200	200	200	
	充足率	94%	94%	92%	92%	101%	
	オフィスワークコース	在籍生数	130	139	130	120	129
		収容定数	120	120	120	120	120
		充足率	108%	116%	108%	100%	108%
	介護福祉コース	在籍生数	57	49	54	63	73
		収容定数	80	80	80	80	80
		充足率	71%	61%	68%	79%	91%
計	在籍生数	436	509	534	480	483	
	収容定数	500	500	500	500	500	
	充足率	87%	102%	107%	96%	97%	

中・高等学校

(令和6年5月1日現在)

区分	項目	R2	R3	R4	R5	R6	
高等学校	在学生数	1,775	1,715	1,731	1,760	1,762	
	収容定数	1,704	1,680	1,690	1,700	1,700	
	充足率	104%	102%	102%	104%	104%	
中学校	在学生数	605	586	597	595	597	
	収容定数	560	570	570	570	570	
	充足率	108%	103%	105%	104%	105%	
計	在学生数	2,301	2,328	2,328	2,355	2,359	
	収容定数	2,250	2,260	2,270	2,270	2,270	
	充足率	102%	103%	103%	104%	104%	

学生・生徒 進路状況

短期大学

卒業者・進学者・就職者数

(令和7年5月1日現在)

	子ども学科	キャリア育成学科		合計	摘要
		オフィスワーク	介護福祉		
卒業者	134	56	32	222	
就職希望者	129	51	32	212	
就職決定者	129	48	30	207	
未内定者	0	3	2	5	
進学者	1	0	0	1	中部楽器技術専門学校
その他	4	5	0	9	家事従事 アルバイト等

過去3ヶ年の公務員試験合格者

●子ども学科

市町名	職種	現役学生			卒業生			計		
		R4	R5	R6	R4	R5	R6	R4	R5	R6
津市	保育士	3	7	3	0	3	4	3	10	7
	幼稚園教諭	1	0	0	3	0	0	4	0	0
四日市市	保育士・幼稚園教務	3	1	5	0	1	0	3	2	5
伊勢市	保育士	2	3	3	0	0	0	2	3	3
松阪市	保育士・幼稚園教諭	6	2	4	0	0	0	6	2	4
鈴鹿市	保育士・幼稚園教諭	3	2	0	0	0	5	3	2	5
桑名市	保育士・幼稚園教諭	0	0	1	0	0	0	3	2	1
亀山市	保育士・幼稚園教諭	1	1	0	0	1	1	1	2	1
鳥羽市	保育士	1	0	2	0	0	0	1	0	2
志摩市	保育士・幼稚園教諭	0	0	1	1	0	0	1	0	1
熊野市	保育士（事務職）	2	1	0	0	0	0	2	1	0
伊賀市	保育士	0	0	1	0	1	0	0	1	1
名張市	保育士・幼稚園教諭	0	0	0	0	0	0	0	0	0
朝日町	保育士	0	0	1	0	0	0	1	0	1
川越町	保育士・幼稚園教務	1	0	0	0	0	0	1	0	0
東員町	保育士・幼稚園教務	0	1	0	0	0	1	0	1	1
菰野町	保育士・幼稚園教務	0	1	0	0	0	1	0	1	1
多気町	保育士	1	0	0	0	0	0	1	0	0
明和町	保育士・幼稚園教務	0	0	2	0	0	0	0	0	2
大台町	保育士	0	0	1	0	0	0	0	0	1
玉城町	保育士	0	1	1	0	0	0	0	1	1
度会町	保育士	2	1	0	0	0	0	2	1	0
大紀町	保育士	1	2	0	1	0	0	2	2	0
御浜町	保育士	1	0	0	0	0	0	1	0	0
紀宝町	事務職（保育士）	1	0	0	0	0	0	1	0	0
	事務職（一般）	0	1	0	0	0	0	0	1	0
三重県	保育士	1	0	0	0	0	0	1	0	0
	警察事務	0	0	0	0	0	1	0	0	1
その他県外	保育士・幼稚園教諭	0	0	0	0	1	0	0	1	0
計		30	24	25	5	7	13	35	31	38

●キャリア育成学科 オフィスワークコース

採用試験名	職種	現役学生			卒業生			計		
		R4	R5	R6	R4	R5	R6	R4	R5	R6
県・市町（県外含む）	行政	0	1	2	0	1	0	0	2	2
県	警察事務	0	1	1	0	1	0	0	2	1
県	警察官	1	2	1	0	0	0	1	2	1

●キャリア育成学科 介護福祉コース

採用試験名	職種	現役学生			卒業生			計		
		R4	R5	R6	R4	R5	R6	R4	R5	R6
県・市町	介護職	0	0	1	0	0	0	0	0	1

主な就職先・配属先

(令和7年5月1日現在)

子ども学科	高田幼稚園、津西幼稚園、津田幼稚園、道伯幼稚園、えがお保育園、志登茂保育園、久居保育園、松阪仏教愛護園、わかすぎ第二保育園、風の丘認定こども園、高岡ほうりん認定こども園、認定こども園ゆい保育園、ゆたか認定こども園、里山学院、多気郡地域児童発達支援センター、市町立幼稚園・保育園・認定こども園 他
キャリア育成学科 オフィスワーク	百五銀行、北伊勢上野信用金庫、百五ビジネスサービス、エフテック、美和ロック、パイロットインキ、ヨシザワ、サイネックス、日本陸送、日産部品東海販売、三重トヨペット、三重トヨタ自動車、三重いすゞ自動車、伊勢湾倉庫、ALSOK 三重総合警備保障、丸之内ビル管理、岡波総合病院、鈴鹿回生病院、四日市市職員、三重県警察 他
介護福祉	あけあい会、永甲会、慈童会、高田福祉事業協会、伯壽会、佐藤病院、緑の風 他

高等学校

卒業者

(令和7年4月5日現在)

		男	女	計
三年制	I類	98	124	222
	II類	80	89	169
六年制		97	86	183
計		275	299	574

進学合格者のべ数・就職者数

		三年制				小計	六年制		小計	合計
		I類		II類			現	卒		
		現	卒	現	卒					
四年制大学	国立	1	0	25	2	28	61	13	74	102
	公立	0	0	11	0	11	14	7	21	32
	私立	188	5	294	11	498	283	76	359	857
文部科学省所管外		0	0	3	0	3	2	3	5	8
海外		0	0	0	0	0	0	0	0	0
短大	公立	3	0	3	1	7	0	0	0	7
	私立	16	0	4	0	20	0	0	0	20
専門学校		43	1	5	1	50	0	0	0	50
就職		7	0	0	0	7	0	0	0	7
合計		258	6	345	15	624	360	99	459	1083

主な進学先

(令和7年4月5日現在)

国公立大学 132名		(医学科 28)					
秋田大学 (医学科)	2 (1)	筑波大学 (医学科)	2 (1)	浜松医科大学 (医学科)	2 (2)	名古屋大学 (医学科)	4 (1)
三重大学 (医学科)	39 (16)	大阪大学 (医学科)	7 (1)	札幌医科大学 (医学科)	1 (1)	名古屋市立大学 (医学科)	7 (1)
東京大学	4	京都大学	2	一橋大学	1	富山大学	5
金沢大学	2	静岡大学	1	静岡県立大学	2	愛知教育大学	2
滋賀大学	4	大阪公立大学	5	神戸大学	3	島根大学	2
広島大学	3	徳島大学	2	高知大学	2	九州大学	2
私立大学 857名		(医学科 33)					
酪農学園大学	1	国際医療福祉大学	1	自治医科大学	4	青山学院大学	4
北里大学	8	慶応義塾大学	8	駒沢大学	3	芝浦工業大学	2
順天堂大学	1	上智大学	2	中央大学	10	専修大学	4
東海大学	2	日本医科大学	2	成蹊大学	2	東京理科大学	8
日本大学	8	法政大学	3	明治大学	9	早稲田大学	13
金沢工業大学	4	愛知大学	29	愛知医科大学	5	愛知学院大学	30
愛知工業大学	11	金城学院大学	8	大同大学	6	中京大学	40
中部大学	18	名古屋外国語大学	10	名古屋学院大学	16	南山大学	31
藤田医科大学	11	名城大学	34	皇學館大学	40	鈴鹿医療科学大学	54
京都産業大学	15	京都薬科大学	3	同志社大学	29	同志社女子大学	4
佛教大学	2	龍谷大学	17	立命館大学	62	大阪学院大学	4
大阪体育大学	5	関西大学	10	近畿大学	30	摂南大学	1
関西学院大学	30	大和大学	3	岡山理科大学	2	帝塚山大学	3
短期大学 27名							
高田短期大学	14	三重短期大学	7	名古屋文化短期大学	1	愛知学院短期大学部	1
専修学校 50名							
三重中央看護学校	4	松阪看護専門学校	3	津看護専門学校	3	三重看護専門学校	6

事業実績の概要

理事会・評議員会・監事会・内部監査委員会の開催状況

令和6年度は高田学苑寄附行為に基づき、計4回の理事会、3回の評議員会を開催しました。また、高田学苑では私立学校に義務付けられている監査法人及び監事の監査に加え、内部監査委員による監査を行い、学校法人におけるガバナンスが適切に機能しているか、外部及び内部から監督・指導を受けています。令和6年度に行われた各会の開催日と議題は以下になります。

理事会	第1回	令和6年 5月28日(火)	・令和5年度決算(案)の承認について
	第2回	令和6年 5月28日(火)	・令和5年度決算(案)の承認について ・学校法人高田学苑寄附行為の改正(案)について
	第3回	令和6年11月 5日(火)	・令和6年度第1回収支補正予算(案)について
	第4回	令和7年 3月25日(火)	・令和6年度第2回収支補正予算(案)について ・令和7年度収支当初予算(案)について ・高田短期大学名誉教授の称号授与について ・学校法人高田学苑勤務規則の一部改正(案)について ・学校法人高田学苑給与規程の一部改正(案)について ・育児休業・介護休業等に関する規定の一部改正(案)について ・高田高等学校学則の一部改正(案)について ・高田中学校学則の一部改正(案)について
評議員会	定 時	令和6年 5月28日(火)	・令和5年度決算(案)の承認について ・任期満了に伴う理事の選任について ・任期満了に伴う監事の選任について ・学校法人高田学苑寄附行為の改正(案)について
	臨 時	令和6年11月 5日(火)	・令和6年度第1回収支補正予算(案)について
	定 時	令和7年 3月25日(火)	・令和6年度第2回収支補正予算(案)について ・令和7年度収支当初予算(案)について
監事会	決算期	令和6年 5月24日(金)	・令和5年度短期大学及び中等高等学校教学監査 ・令和5年度事業実績報告 ・令和5年度決算審査関係 ・質疑応答
	上半期	令和6年10月25日(金)	・令和6年度短期大学及び中等高等学校概要報告 ・令和6年度第1回補正予算書及び現預金状況 ・令和6年度事業実績報告(中間) ・質疑応答及び実査
内部監査委員会	第1回	令和6年 5月22日(水)	・令和5年度短期大学及び中等高等学校教学監査 ・令和5年度事業実績報告 ・令和5年度決算概要報告 ・質疑応答
	第2回	令和6年10月23日(水)	・令和6年度短期大学及び中等高等学校概要報告 ・令和6年度事業実績報告(中間) ・現金、預金及び有価証券の状況 ・学苑管理運営等について

監査法人監査報告

監査法人監査		監査法人名：五十鈴監査法人
4月 2日(火) 現金、通帳、証書の実査	9月13日(金) 令和6年8月までの取引記録	
5月17日(金) 令和5年度決算監査①	12月 3日(火) 令和6年11月までの取引記録	
5月21日(火) 令和5年度決算監査②	1月22日(水) 令和6年12月までの短大取引記録	
6月 3日(月) 令和5年度決算監査③	3月14日(金) 令和7年2月までの取引記録	

危機管理への取り組み

非常食等の備蓄

東海地域では、近い将来に南海トラフ地震が発生することが懸念されています。自然災害が全国各地で年々増加傾向にあり、日頃からの備えに対して学苑全体で取り組みを進めています。

この「白い小箱運動」は単なる非常食等の備蓄に留まらず、小箱の詰め込み・搬入作業を行う障がい者の方々の就労支援や非常食推進機構と締結した「災害用物資を活用した防災活動に関する協定」に基づき、学生・生徒が卒業時に自身で購入した白い小箱を寄付することで地域や食料物資を必要とする海外へ援助を行う「白い小箱運動」に参加する等の社会貢献活動として意義のあるものとなっています。

本年度は、日本非常食推進機構を通じて社会福祉法人三重県厚生事業団へ64個、津市健康福祉部へ150個、松阪市こども未来課へ350個、三重県子ども福祉部へ210個、鈴鹿市へ70箱の合計844個の寄付を行い、各団体・行政より障害者施設での支援や備蓄教育、児童養護施設及び生活困窮者、福祉施設への支援品として活用されます。



夏期教職員研修会

教職員研修会が令和6年8月20日（火）高田中・高等学校講堂において、教職員約200人を対象に開催しました。

第1部 講演 「ハラスメントのない職場づくりのために」

三重県男女共同参画センター「フレンテみえ」 前所長 荻原 くるみ 氏

2020年6月にパワハラ防止法が施行され、2022年4月から中小企業においても「パワハラ防止のための措置」を講じることが義務化となりました。学校現場においても様々なハラスメントが発生してきており、本学としてもハラスメント防止の観点から、何がコンプライアンス違反になるのかを理解し、ハラスメントの知識について理解を深める場として、三重県男女共同参画センター「フレンテみえ」の前所長である荻原くるみ氏に講演を行っていただきました。講演の中で荻原氏は「相手が不快、嫌な気持ちになるかどうか、ハラスメントを疑うスタート地点。決めるのは言った側ではない」と強調。「同じ言動でもハラスメントになるかどうかは、相手との人間関係によって変わってくる。特に学校という環境では生徒の話を書くときに、否定したり遮ったりせず最後まで話を聴くことを心掛けてほしい」と話されました。パワハラやセクハラなどのさまざまなハラスメント事例をもとにどのような行為がハラスメントに該当するのかを確認することで、職場内での上司・同僚・生徒とのコミュニケーションについて参考となる講演でした。



第2部 講演 「人権が尊重される社会をつくるために

～人権感覚を磨き、差別解消に向けた取組を積極的に行いましょう～

高田中・高等学校 教諭 鈴木 巧 氏

三重県内の学校に勤務する教員が、購入した土地が被差別部落にあったため業者に契約の解除を求めたとして、県は「包括的に差別を禁止する条例」を初めて適用し、令和6年2月に当該教員へ差別をやめるよう促す「説示」を行っていた件について、三重県教育委員会はこの事案を学校教育に対する信頼を大きく損なうものである事案として重く受け止め、公私を問わず全ての教

職員が率先して人権問題の解消に積極的な役割を果たす責務があることを自覚するよう取り組みを進めていくとする発表を行いました。

その取り組みである県の人権研修に本学の鈴木教諭が参加し、その研修内容を学内共有することで高い人権意識の醸成の一助となるよう発表を行っていただきました。今回問題となった部落差別にスポットを当て、差別とは何かを正しく理解し、そのうえで「差別を解消する側に立った行動ができるかどうか」、「確かな知識理解に基づく人権感覚を身に付けることによる人権意識の向上」、「人権侵害をされている人が意見や思いを届けられる環境づくり」という3つの視点を踏まえ、自身の偏見や差別に出会った経験や自分の差別心に気づいた経験等を振り返り、グループワーク形式で意見交換することで人権感覚を高めると共に教職員同士の交流を深めることにつながった研修となりました。



教職員の健康管理体制

健康診断・任意検診

本学は平成23年度より夏期休暇期間を利用し、学校保健安全法、結核予防法、労働安全衛生法などで定められた検査項目を遵守した健康診断を実施しています。令和6年度は8月2日（金）、5日（月）、6日（火）、7日（水）の4日間での検診を実施し、教職員217名が受診しました。

例年任意検診の検査項目を追加しており、令和6年度は胃リスクを判定するペプシノーゲン検査と脳や心筋梗塞リスクを判定するロックスインデックス検査を追加しました。

検査結果をもとに産業医である岩崎病院が教職員の健康を確保する必要があると認めた場合は、本学に対し教職員の健康管理等について必要な勧告がなされます。



ストレスチェック

労働安全衛生法の改正により平成27年12月以降、メンタルヘルス不調を未然に防ぐ目的から事業所に義務付けがなされました。教職員はストレス判定を行う調査票の質問項目に回答することで自身のストレス度合いがわかります。ストレスチェックを行うことで高ストレス者を抽出し、メンタルヘルス不調を未然に防止する一時予防を講じることでメンタル不良者の発生を防ぎ、より働きやすく健康的な職場へと改善することを目指します。今年度は6月10日（月）より1ヶ月間、ストレスチェックをウェブ上で実施しました。事業所としては検査結果を通知された教職員の希望に応じて医師による面接指導の実施を行う必要があります。またその結果、医師の意見を聞いた上で、必要な場合には、作業の転換や労働時間の短縮といった適切な措置を講じる責任があります。昨今のコロナ禍への対応や教職員へ求められるものが多様化するなかで教職員を守る一助となるようストレスへの気づきを促すとともに職場環境の分析と改善に繋げていきます。

インフルエンザ予防接種

平成28年度から毎年実施しております学苑内での予防接種ですが、今年度も三重県健康管理事業センターに来校いただき、11月15日（金）、11月19日（火）の2日間にて実施しました。接種希望者111名に実施し、予防接種の費用についてはこれまで同様に学苑が一部負担となります。

教職員の表彰

特別表彰	
中・高等学校	10月 4日（水） 計 2名
優良教職員	教諭 1名 三重県私学総連合会 優良教職員受賞による

永年勤続表彰			
短期大学	11月 6日（月）	計 5名	
25年 勤続	1名	15年 勤続	2名
10年 勤続	4名		
中・高等学校	10月 4日（水）	計 20名	
35年 勤続	4名	30年 勤続	2名
25年 勤続	1名	20年 勤続	2名
15年 勤続	8名	10年 勤続	3名

教職員の異動状況

		採用			退職	
		新規採用	再雇用	任用替	再雇用	完全退職
短期大学	教授		1		1	
	准教授	1				
	講師	1		2		
	助教	1				
	本務職員	1			1	1
	特任教授					1
	特任准教授					
	特任講師					
	嘱託職員	2				3
非常勤職員						
中・高等学校	教諭	2		4	6	2
	本務職員			1	1	
	講師		1			
	講師嘱託	4		1		
	ALT					
	嘱託職員					2
	非常勤講師	6	4			7

給付型奨学金・授業料等減免（助成）

高田学苑では、保護者や学生の経済的な負担を軽減する目的から、各種奨学金・授業料等減免制度を設けています。なお、これらの奨学金は給付型であり、すべて返済不要です。

高田短期大学介護福祉士就労予定者奨学金	
対 象	キャリア育成学科介護福祉コース学生
目 的	建学の精神に照らし、特に学業・人物に優れた学生で卒業後介護施設に就職する予定であるすべての学生(外国人留学生を除く)を支援する。
決定者	49名 (1年生30名、2年生19名)
奨学金額	4,900,000円 (1・2年生ともに年額10万円を給付)
高田短期大学奨学金私費外国人留学生授業料等減免措置	
対 象	高田短期大学に在学する私費外国人留学生
目 的	授業料・施設設備整備費・教育充実費等の経済的負担を減免する。
決定者	15名(減免率については学業成績(GPA), 日本語能力試験(JLPT)に基づき決定)
奨学金額	2,896,500円

短期大学入学金免除制度

高田高等学校を卒業し高田短期大学に入学する場合、入学金（28万円）が免除される制度もあります。過去3カ年の高田高等学校からの進学者数は以下のとおりです。

	令和4年度入学	令和5年度入学	令和6年度入学
人 数	28名	36名	40名

時代・社会の変化に即応した取り組み

1 学士力向上を目指した教育課程の展開

学生の主体的・自律的な自己評価充実に向けて

「ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）」で示した「共通到達目標（全学的学修成果）」に到達できるよう、「履修マップ」、「ルーブリック評価」等のツールに「科目ナンバリング」を加えることで、学生が授業科目全体を体系化して理解した上で、積極的に成果を点検し評価できるよう整えることができました。

授業環境の整備（新システムの運用を中心とした整備）

昨年度から導入した教務関連システム（Active Academy Advance）により、各教員からの資料提示、授業内の質疑応答、学生向けの出席状況・成績等の現況確認ツールなど、厚みのある授業環境が整いました。今年度は7月に一部機能を改良し、より利便性の高いシステムとして教員・学生双方に定着を図ることができました。

2 主体性・協調性を育む短大生活支援

(1) 新入生研修

日時 4月23日（火）

会場 （子ども学科） 本学

（キャリア育成学科） COCOPA RESORT CLUB

白山ヴィレッジゴルフコース（津市白山町川口6262）

研修内容 新入生研修を通じて、短大生としての自覚・自立心および協調性を養うとともに、学生・教職員相互の理解と親睦を深めることにより、今後の短大生活をより有意義に送れるようにすることを目的としています。子ども学科はゼミナール単位で独自の衣裳を制作し、創作ダンスを披露しました。キャリア育成学科はグループに分かれてチームワーク作業やレクリエーション等を行いました。

(2) 学生自治会主催イベント

本学伝統の自治会活動では、2年生の執行部役員に加え、1年生から学生自治会サポートメンバーを募り、各学生が自らの役割を考えて行動し、課題を解決していく「異学年共同コミュニティ」の形成を目指しています。自治会活動を教職員が支え、年間を通して種々の行事を企画しています。

① TJC祭（スポーツ大会）

日時 5月18日（土）

場所 本学体育館

内容 新入生歓迎および学生の親睦を深めることを目的に開催しました。スポーツを行うには最適な時期で約60名の学生が集まり、自治会役員や教職員とともに競技に参加しました。



② 学生自治会主催 抽選会

日 時 7月19日(金)

場 所 2号館1階カフェテリア

内 容 学内コンビニおよび笑旨XXと連携し、学内で買い物をした学生を対象に学生自治会が抽選会を行いました。



③ 第59回高短祭

日 時 10月19日(土)・20日(日)

場 所 本学

内 容 19日は午前中に準備を行い、午後から学内関係者での開催、20日は一般公開での開催としました。飲食関係の屋台ばかりでなく、幅広い年代の方楽しんでいただけるゲームやイベント等が一般来場者に好評でした。また学生の模擬店に加えてケータリング業者のキッチンカーを3台導入しました。



(3) 学長と学生自治会執行役員との懇談会

日 時 7月15日(月) 14:50~

場 所 第4会議室

出席者 清水谷学長、執行委員11名、教職員12名

内 容 学生との意見交換や、学生からの要望等の聴き取りを行い、改善策について検討しました。

1) 高短祭について

2) 学業及び学生生活全般に関する意見交換

日 時 令和7年1月17日(金) 16:20~

場 所 第4会議室

出席者 清水谷学長、執行委員21名、教職員11名

内 容 学生との意見交換や、学生からの要望等の聴き取りを行い、改善策について検討しました。

1) 新旧自治会執行委員の自己紹介等

2) 学業及び学生生活全般に関する意見交換

(4) 謝恩会

日 時 令和7年3月19日(水) 14:30~

場 所 ホテルグリーンパーク津 6階 伊勢・安濃の間

出席者 清水谷学長、卒業生196名、教職員43名、学生自治会8名

内 容 ビュッフェ形式の立食パーティーにて実施しました。大半の卒業生が参加し、抽選会や教員からのメッセージ動画などがあり、たいへん盛り上がった謝恩会となりました。卒業生にとってたいへん良い思い出になったものと思われます。



3 キャリア教育・キャリア支援の充実

キャリア教育の推進

各学科・コースの特色に応じて就職に関わる科目を設定するとともに、プレ講座、フォローアップ講座ならびに就職講座と関連付けることにより、系統的なキャリア教育を推進しています。

2024年度 入学生 (1年生)	子ども学科	【授業】キャリアスタディ 8回実施 プレ講座 3回実施、フォローアップ講座 1回実施
	キャリア育成学科 オフィスワークコース	【授業】キャリアガイダンスII 13回実施 プレ講座 2回実施
	介護福祉コース	プレ就職講座 1回実施 就職講座 3回実施
2023年度 入学生 (2年生)	子ども学科	フォローアップ講座 2回実施
	キャリア育成学科 オフィスワークコース	【授業】キャリアガイダンスII 1回実施 フォローアップ講座 3回実施
	介護福祉コース	就職講座 4回実施

公務員試験対策

(1) 教養試験対策講座〔受講者数〕()内は内数で事務職希望者

	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
1年生	130(20)人	145(7)人	85(9)人	72(3)人	88(6)人
2年生	32(2)人	52(1)人	77(2)人	56(6)人	49(3)人

2024年度入学生(現1年生)は、9月11日(火)から令和7年3月7日(金)まで21回実施
2023年度入学生(現2年生)は、4月8日(月)から7月1日(月)まで12回実施

(2) 保育専門対策講座 2年生 令和6年3月18日(月)・令和6年3月21日(木)
:計4回実施(令和5年度中)
1年生 12月4日(水)~令和7年2月26日(水):計8回実施

(3) 数学対策講座 2年生(4月~ 13回実施)、1年生(9月~ 20回実施)

(4) 公務員二次・三次対策講座

市町別(四日市市、松阪市、鈴鹿市、津市)等 7回実施、
1年生向けガイダンス2回実施、他随時個別指導



学生への就職支援

キャリア支援センターでは、キャリアカウンセラーの有資格者をはじめ、学生の多くが希望する分野の採用事情に精通した職員が、学生の進路相談や就職活動などについてきめ細やかな支援を行っています。

卒業生への支援と早期離職の防止対策

生涯キャリア支援を旗印に、離職したり、仕事上の悩みなどで相談に訪れる卒業生に対して、卒業後も継続して支援を行っています。早期離職防止対策については、令和7年2月17日(月)の就職直前講座で各学科コース別に指導しました。

「AAA（相談記録）」の活用等による協働型キャリア支援の推進

毎月1回（年13回）、キャリア支援委員会ならびに学科・コース毎の事前ミーティングを開催して、各学科・コースとキャリア支援センターの教職員が、一人ひとりの学生に対するキャリア支援のあり方について協議しています。また、日常的には学内Webシステム「AAA」の相談記録を活用して、教職員間の情報共有と意思疎通を図っています。

4 学生募集と高大交流事業

(1) 高大教育交流事業

今年度の交流事業の実施回数は以下のとおりです（協定校19校および高田高等学校での実績）。なお、今年度新たに白山高等学校、四日市農芸高等学校が高大教育交流協定校となりました。

- ① 出張ガイダンス（協定校へ出向いて学校ガイダンスを行う）69回（19校）
- ② 出前（模擬）授業（協定校へ出向いて出前（模擬）授業を行なう）15回（6校・15講座）
- ③ 特別授業・授業見学・施設見学など（本学の授業に出席、本学の施設・設備見学）4回（4校・10講座）



(2) オープンキャンパス実施結果

① 日時

第1回	4月27日（土）	13:00～15:30
第2回	6月8日（土）	13:00～16:00
第3回	7月7日（日）	13:00～16:00
第4回	8月3日（土）	13:00～16:00
第5回	8月25日（日）	13:00～16:00
第6回	12月15日（日）	13:00～15:00
第7回	令和7年3月9日（日）	13:00～16:00

② 参加者数

	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	合計
子ども学科	40名	54名	59名	127名	112名	37名	55名	484名
キャリア育成学科 オフィスワークコース	32名	22名	27名	69名	38名	8名	14名	210名
キャリア育成学科 介護福祉コース	5名	13名	8名	21名	11名	1名	2名	61名
計	77名	89名	94名	217名	161名	46名	71名	755名

※ 他に留学生オープンキャンパスを以下のとおり実施

- 1) 7月15日（月）14:00～16:00 参加者 10名
- 2) 8月7日（水）14:00～16:00 参加者 7名

5 外国人留学生支援について

留学生のビザ更新に関する情報、奨学金など金銭面支援の状況、納税及び社会保険料などの支払いに関する情報、日本語能力検定試験など学習状況について、外国人留学生支援室内での情報の共有を図っています。

(1) 外国人留学生支援室による在留期間更新の取次申請手続き

9月末までに1年生9名、2年生6名の対応を行い、在留資格更新不許可者を出さずに無事に手続きが行えました。

(2) 施設奨学金の斡旋

1年生7名に対し各介護福祉施設奨学金の説明および施設担当者との面接の段取りを行い、全員奨学金の受給が決定しました。

(3) 授業内での日本語支援

介護福祉コースの授業に日本語補助員を配置し、介護や医療の専門用語等の説明が留学生に非常に好評です。更に、日本語能力等向上のための日本語補習講座を実施しています。

(日本語補助対象授業科目)

- | | |
|----|-----------------------------|
| 前期 | 1年生・・・「心と身体のしくみⅠ」「人間発達の理解Ⅰ」 |
| | 2年生・・・「社会保障」 |
| 後期 | 1年生・・・「人間発達の理解Ⅱ」 |
| | 2年生・・・「地域福祉」 |

地域への社会貢献事業

みえアカデミックセミナー2024

三重県内にある全ての大学・短期大学・高等専門学校が有する学びと県民をつなぐ三重県の高等教育機関の連携事業で、各校の特色を活かしたバラエティ豊かな公開セミナーが毎年開催されています。

本学は次の講座を開講し、57名の受講がありました。

日 時 7月23日(火) 13:30～15:00

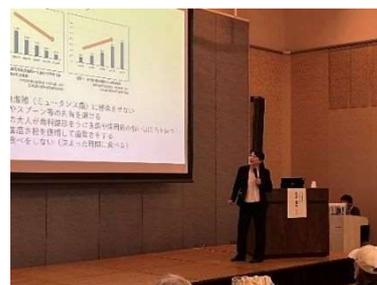
会 場 三重県総合文化会館1階 レセプションルーム

テ ー マ 「イマドキ子育て

～子育ての常識をアップデートしませんか～」

講 師 子ども学科教授 長倉 里加

子ども学科准教授 榎原 尉津子



高田短期大学公開講座

【講座1】「ペーパーキリングで絵画を描こう」

開催日 8月4日(日)

場 所 造形演習室

参加者 8名

受講料 無料

講 師 子ども学科講師 亀澤 朋恵

内 容 細長く切った紙を巻いて加工し、貼り付けて1枚の絵にするペーパーキリングを学んでいただきました。受講者の皆様には、終了時間の間際まで熱心に紙工作に取り組みながら、思い思いの表現を楽しんでいただけたようでした。



【講座2】「Excelで『家計分析のための家計簿づくり』体験

～ PTA・町内会などの会計も ～

開催日 9月14日(土)

場 所 PC教室

参加者 28名

受講料 無料

講 師 キャリア育成学科特任教授 鷲尾 敦

内 容 Excelによる家計状況把握のための計算表設計、分析ツールの使い方などを学んでいただきました。

受講者の皆様には、講師やアシスタントに積極的に質問するなど、終了時間まで熱心に取り組んでいただきました。



【講座3】「自分や家族が認知症になっても安心して暮らすために」

開催日 10月26日(土)

場 所 221教室

参加者 32名

受講料 無料

講 師 キャリア育成学科教授 中川 千代



内 容 軽度認知障害 (Mild Cognitive Impairment: MCI) という新しい概念が紹介され、アンケートによる簡単な診断から、運動療法まで実践と解説がありました。受講者の皆様には、アシスタントの補助を受けながら、ゲームを楽しんでいただきました。体験型の講座で充実した時間を過ごしていただいたようでした。

【講座4】「金融・証券に関する個人所得課税の動向 ①」

～ 新NISA (少額投資非課税制度) の有利・不利 ～」

開催日 8月31日 (土)

講師 キャリア育成学科助教 伊東 秀幸

当講座は、台風10号接近のため中止となりました。

【講座5】「金融・証券に関する個人所得課税の動向 ②」

～ iDeCo (個人型確定拠出年金) の有利・不利 ～」

開催日 9月29日 (日)

場 所 大講義室

参加者 20名

受講料 無料

講師 キャリア育成学科助教 伊東 秀幸

内 容 所得税が実際にどれくらいかかるのか試算した後、所得税の仕組みや金融・証券税制の仕組み、所得控除と税額控除の違い、新NISAとiDeCoの特徴について解説しました。状況によっては積立や投資をするよりも必要な物を購入しておく方が良い場合もあることなど、普段の生活で役立つ考え方が紹介され、受講者の皆様には資産形成について考えていただくきっかけとなったようでした。



【講座6】「貝殻で頭の柔軟体操」

開催日 11月9日 (土)

場 所 大講義室

参加者 16名

受講料 無料

講師 子ども学科特任教授 大野 照文

内 容 ハマグリ貝殻を手がかりにして、貝殻の機能や生きていた時の貝の体の動きを推理していただきました。また、特徴的な形をしている他の様々な貝についても貝殻を実際に触っていただきながら、その形をしている理由や体の仕組みについて考えていただきました。参加者の皆様には、貝殻をテーマに実物を観察し他の人と一緒に考えることで考えを深め広げていく方法を体験していただきました。



【講座7】「公德心も利己主義も根は同じ？」

開催日 12月7日 (土)

場 所 大講義室

参加者 17名

受講料 無料

講師 子ども学科特任教授 大野 照文



内 容 公徳心と利己主義という一見相反する心理状態は、人類の進化から見ると、実はともに社会性発達と自意識の高まりによっているとの指摘から始まり、今後、人類の進化は、技術的発展よりも精神活動の向上に力点が置かれる時代に入っていくだろう、との解説がありました。受講者の皆様には、例えば、人類がAIに自己の精神的欠点を指摘されかねないといった危機感を実感していただいたようでした。

【講座8】「三葉虫を調べよう」

開 催 日 令和7年2月15日（土）

場 所 大講義室

参 加 者 10名

受 講 料 無料

講 師 子ども学科特任教授 大野 照文

内 容 三葉虫の化石標本を用いて、ワークショップ形式で開講し、スケッチで特徴を把握すること、いかにして身を守っていたか話し合いを通じて答えを出すこと、などの課題を出しました。受講者の皆様には、わからないことでも、知っていることを活かして推理していけることを実感していただいたようでした。受講者全員に修了証が手渡されました。



高田短期大学付属図書館 公開講座

「図書館司書と楽しむ文学とおしゃべりの講座」（全3講座）

【第1回】「柳宗悦と朝鮮半島 ～ことばを通じて多様性を考える～」

開 催 日 10月2日（水）

場 所 図書館1階 グループワークエリア

参 加 者 18名

受 講 料 無料

講 師 図書館司書 瀬古 幸弘

内 容 民藝運動で知られる柳宗悦の著書から朝鮮の人々へのまなざしを読み取るとともに、朝鮮半島にゆかりのある作家の文学作品についても取り上げ、多様性という視点から作品を通して日本社会のあり方を考えました。参加者の皆様には、新しい発見があった、色々考えさせられた、もっと勉強したい等のお声をいただきました。



【第2回】「伊勢物語 ～『むかしをとこ』の熱量、その根源にあるもの～」

開 催 日 11月27日（水）

場 所 図書館1階 グループワークエリア

参 加 者 17名

受 講 料 無料

講 師 図書館司書 瀬古 幸弘

内 容 歌物語として広く知られる伊勢物語について、「雅び」のイメージや「折句」の外国語訳などを紹介した後、三重県の伊勢が出てくる段や、国語の授業ではあまり取り上げられない段など 全体的なストーリーにも触れ、途中で朗読もはさみながら解説をお聞きいただきました。参加者の皆様には、三重県と関わりがあることを知らなかった、在原業平の人物像が変わった、興味を持ったので読み直してみたいといったお声をいただきました。



【第3回】「バルバラ ～共生のためのシャンソン～」

開催日 令和7年2月26日（水）
場所 図書館1階 グループワークエリア
参加者 17名
受講料 無料
講師 図書館司書 瀬古 幸弘



内容 波乱の人生を送りながらも歌手・作詞家として成功したバルバラを取り上げ、彼女の代表曲について、当時の社会情勢や彼女の手記も参考にしながら歌詞の解釈を進めました。戦争の影響で苦しい人生を送る人々を表現した日本の曲や本も紹介し、厳しい状況から生まれた作品にこめられたメッセージについてもお聞きいただきました。これまで曲は耳にしたことがあったもののバルバラという歌手を初めて知ったという方も多くいらしかったようでした。

仏教教育研究センター

研究会の開催

研究テーマ：「国宝・親鸞聖人筆『西方指南抄』の研究」

真宗の開祖である親鸞聖人が著された『西方指南抄』の研究書を発刊することを目的に毎月1回研究会を開催しています。現在は、翻刻作業を進めています。

仏教教育研究センター公開講座（高田本山教学部 共催）

地域の方々に仏教に触れる機会をご提供することを目的に、高田本山教学部との共催にて、真宗高田派本山の高田会館ホールにて開講しました。なお、いずれも受講料は無料です。

第1回	日時	6月6日（木）13:30～15:30	受講者	41名
	題目	能楽をめぐる仏の教え ～謡曲「羽衣」を中心として～		
	講師	中村 宜成 氏（真宗高田派光輪寺住職）		
第2回	日時	10月18日（金）13:30～15:30	受講者	43名
	題目	真慧上人と一身田		
	講師	藤田 正知 研究員（高田中・高等学校教諭）		

仏教基礎講座（高田本山寄附講座）

高田本山からの寄附を基に実施する講座で、仏教や真宗に関する基礎的な内容に加え、真宗高田派の歴史や法宝物に関する知識を以下の日程で学んでいただきました。

日時	8月19日（月）～8月23日（金） 9:00～17:50（50分の昼休憩あり）			
対象	寺族及び一般			
受講料	無料（但し、テキスト代は実費負担）			
教科 講師	「仏教学」	栗原 廣海	研究員（高田短期大学名誉教授）	
	「仏教史」	金信 昌樹	研究員（真宗高田派善昌寺住職）	
	「真宗学」	松山 智道	研究センター長（高田短期大学特任講師）	
	「真宗史」	清水谷正尊	研究員（高田短期大学学長）	
	「高田の歴史と法宝物」	栗原 直子	研究員（高田中・高等学校非常勤講師）	

仏教専門講座（高田本山寄附講座）

仏教基礎講座と同じく高田本山からの寄附を基に実施する講座で、仏教や真宗に関するより専門的な知識を学んでいただくために、以下の日程で年間10回の講座（試験日として11回目あり）を開催しました。

なお、この専門講座における講座科目は隔年で内容が変わり、全10科目（隔年で5科目）を開講します。この講座は、文部科学省の履修証明制度に則った「履修証明プログラム」として開講し、全10科目の講座を修了された方には学校教育法第105条に基づいた履修証明書を交付します。

日 程	4月26日（金） 5月31日（金） 6月28日（金） 7月26日（金）
	9月27日（金） 10月25日（金） 11月29日（金） 12月20日（金）
	令和7年1月31日（金） 令和7年2月28日（金） 令和7年3月 7日（金）
	各日 9：00～17：50（50分の昼休憩あり）
対 象	寺族および一般（真宗高田派の教学を学びたい方）
受講料	無料（但し、テキスト代は実費負担）
教 科 講 師	「仏教学概説」 栗原 廣海 研究員（高田短期大学名誉教授）
	「仏教学講読Ⅰ」 清水谷正尊 研究員（高田短期大学学長）
	「真宗学講読Ⅰ」 金信 昌樹 研究員（真宗高田派善昌寺住職）
	「真宗学講読Ⅲ」 佐波 真 研究員（高田中・高等学校非常勤講師）
	「高田の宗風」 島 義恵 研究員（真宗高田派聖洞寺住職）

運営委員会開催の状況

第1回 7月26日、第2回 11月18日、第3回 令和7年2月6日、

（内容）専門講座について、基礎講座について、令和7年度センター年間行事予定について、

令和7年度公開講座講師について、センター研究会について、令和7年度講座について

仏教行事委員会

学内仏教行事の実施

学内仏教行事の実施

	新入生本山参詣	宗祖降誕会（奉讃法会）	灌仏会
開催日	4月3日（水）	5月20日（月）	6月17日（月）
講 師	清水谷 正尊 （本学学長）	佐藤 弘道 （高田幼稚園園長）	梅林 久高 （高田学苑学苑長）
参加者	250名	225名 （1年のレポート提出者数）	232名 （1年のレポート提出者数）

	追弔会	報恩講
開催日	10月14日（月）	12月16日（月）
講 師	松山 智道 （本学特任講師）	清水谷 正尊 （本学学長）
参加者	218名 （1年のレポート提出者数）	197名 （1年のレポート提出者数）

1. 地域子育て支援事業

1. 地域開放事業「おやこひろば たかたん」

子育て家庭の支援と子育て支援に関する研究フィールドの「おやこひろば たかたん」は、津市を中心に子育て親子の皆さんにご利用いただいています。スタッフの見守りの中、親子や子ども同士、親同士がゆったりした雰囲気であい遊び、交流を深める場として開催しています。

今年度より就園児も参加できるように門戸を広げました。子育て家庭が求めている子育て支援を探りながら開催内容を考えています。

1) 「おやこひろば たかたん」活動状況と利用者数

開催日時 毎週月曜日、第1・第3木曜日 10:00～12:00

場 所 育児文化室（1号館2F）

参加対象 未就学児とその保護者・妊婦

令和6年度 64回ひろばを開設し、子どもと保護者を合わせて延べ1828名の利用。

2) 子育て講座

ひろば開催日（月1回）にセンター研究員を講師に子育て講座を開催しています。

講座日	テーマ	講 師	参加者数
5/20（月）	自然の中で子育てを～森の色をいただきちゃおう～	才賀 美奈	7組
6/20（木）	なにができるかな？さわってみよう、つくってみよう♪	亀澤 朋恵	15組
7/22（月）	親子で楽しくミュージックベル	権部 良子	15組
9/19（木）	赤ちゃんを災害から守る勉強会 ～小さな命を守るための母乳とミルクのお話～	(株)江崎グリコ	13組
10/17（木）	親子で楽しむ版画	古谷 淳	14組
11/25（月）	気になる！子育てとお金のお話～資産形成について～	津財務局	11組
12/19（木）	冬の森の宝探し～森の恵みで遊ぼう～	谷 慶子	10組
R7.1/27（月）	絵本で遊ぼう！	岩附 啓子	14組
R7.2/20（木）	離乳食のはじめ方・すすめ方	生川 美江	5組

3) ひろば関係研修会

第1回ひろば関係研修会 「乳幼児の救急蘇生について」

津北消防署を招いて乳幼児の救急蘇生法やAEDの使用について研修会を行いました。

日 時 8月18日（火） 13:30～14:30

4) 「おやこひろば たかたん」HP、インスタグラム

「ひろば開催日」「活動案内」「活動紹介」等、現在の活動や今後のご案内をしています。

インスタグラムでは、その日のひろばの様子やイベント情報などをアップし、タイムリーに情報が伝わるようにしています。

2. 子育て相談

地域への子育て支援の事業として、子育て相談を予約制で行っています。今年度より発達を中心に相談を受けています。令和6年度は11件の相談利用がありました。

相談内容	担当者	令和6年度基本相談日
発達相談	中嶋 麻衣	第2・第4 火曜日 11時
	伊藤 拓也	

II. 研究会

センター研究員の活動の場として定例研究会とグループ研究会を開催しています。

1. 定例研究会（年3回予定）

第1回 第66回定例研究会 5月15日（水）16:30～ 第4会議室 参加者21名

研究報告 岩附 啓子 研究員 「子どもと生きる絵本の世界」

第2回 第67回定例研究会 12月10日（火）16:30～ 第4会議室 参加者22名

研究報告 大野 照文 研究員

2. グループ研究会

グループ研究①「子育て支援について」（6名）

開催回数：8回

グループ研究②「おやこひろばたかたんにおける学生の学びについて」（3名）

開催回数：5回

グループ研究③「自然保育とこれからの保育者養成」（10名）

開催回数：4回

グループ研究④「発達障がいのある子どもへの支援について」（4名）

開催回数：5回

III. 学生支援事業

1. ボランティアでの参加

おやこひろば等での学内ボランティアを中心に学生と共に進めています。ひろばでの経験が学生にとって貴重な体験と学びの機会となるように、事前のねらいや事後の振り返りを重視し、個々の学生を支援しています。



2. ゼミ活動での参加

ゼミの授業を利用して平常のおやこひろばや休日のファミリーデーに参加や企画・運営をしています。学生同士で親子で楽しめる内容を考え、実践し、振り返る実践の場となっています。ファミリーデーでは多くの親子に対応する機会になっています。参加親子にとっても、学生の活気と一生懸命さに満足していただいています。

3. 授業での参加

本年度より開講された「たかたん保育特別演習（子育て支援）」において、おやこひろばに参加しています。この授業では継続的にひろばに参加することで、自分や友達の実践を見て振り返ったり参加された方からのご意見を反映したりしながら、次の実践に活かすようにしています。実践の場の回数を重ねること、保護者とかかわる機会を持つことで就職後にスムーズにつながることを願っています。



IV. 広報物及び研究成果の発行

1. 育児文化研究センター紀要「高田短期大学育児文化研究」第20号（令和7年3月発行）

研究論文3編、調査報告3編、文献研究3編と定例研究会での研究報告要旨、4つのグループ研究会等を掲載しました。

高田短期大学 育児文化研究第20号 執筆依頼一覧

*掲載順は各種別で著者五十音順

種別	テーマ	執筆者
研究論文	子どもはオノマトベ絵本のどこに魅かれるのか －読み聞かせにおける子どもの発達的变化－	岩附啓子
研究論文	保育者養成課程における自然体験実習の意味について（3） －保育者及び保育者志望学生の、「自然」、「自然体験」、「自然保育」にかかわる 実態や意識の調査研究より－	河崎道夫
研究論文	親子を対象とした地元の木材による楽器作りと演奏会の取り組みと課題（2） －三重県産スギによるカホン作りをもとに－	山本敦子
調査報告	保育者養成と自然体験活動に関する調査2 －学生の自然体験に関する意識－	中嶋麻衣・長倉里加・河内純子 ・福西朋子・青木信子・亀澤朋恵
調査報告	保育者や教員を目指す高校生のキャリアに関する調査研究	藤重育子
調査報告	子育てや孫育てに関する調査研究 －育児の実際と捉え方に関する質的内容に着目して－	前畑みち代・藤重育子
文献紹介	エージェンシーを育む教育に関する考察	杉本あゆみ
文献紹介	「徹底育児」批判解説－社会的支援と母親の責任論を越えて－	古谷淳

2. 子育て情報発信

「情報誌きらきら」（隔月発行：年6回）の育文センター担当頁「子育てライフ応援隊！一緒に子育てをはじめましょ」への子育て情報を掲載。

掲載 Vol	掲載号	発行 予定日	広場・相談 掲載日程	テーマ（担当）	
				子育てアドバイス	おやこひろば より（ひろばスタッフ）
74	5・6月	5/25	6・7月	親って不思議（長倉）	親子で過ごす雨の日に・・・
75	7・8月	7/10	8・9月	地域子育て支援センター（おやこひろば等） デビューをしてみませんか？（榊原）	暑い夏を元気に美味しく！
76	9・10月	9/25	10・11月	子どもの遊びと運動能力（青木）	秋の訪れを親子で楽しみましょう
77	11・12月	11/25	12・1月	みんなで体験、みんなで成長（伊藤）	見て・触れて・感じて 「自然」と一緒に 大きくな～れ！
78	1・2月	1/25	2・3月	便利な社会の落とし穴（尾高）	子どもの成長を願って！
79	3・4月	3/25	4・5月	育てにくさのある子どもの子育てに悩む お母さん・お父さんへ（林）	春ですね、深呼吸でリラックス！

V. 地域連携事業

1. みえ次世代育成応援ネットワーク

みえ次世代育成応援ネットワークに運営委員として参画し、県行政と地元企業や地域子育て団体と連携し、子育て支援活動事業に取り組みました。

「みえの子ども応援プロジェクト」ありがたいの一行詩コンクールに多くの学生が応募しました。

2. みえこどもの城連携協定による事業

12月21日(土)にみえこどもの城で「たかたん あそびひろば」での催しで、劇、製作、体験と様々な活動を行いました。



たかたんあそびひろば実施一覧

イベント内容	参加グループ	人数
劇 : 「八ひきの子ヤギ」	長倉ゼミ (2年生)	11人
製作 : 「サンタクロースのふわふわオーナメント作り」	古谷ゼミ (2年生)	9人
製作 : 「世界に一つだけのクリスマスリース」	長倉ゼミ (1年生)	11人
劇 : 「ももたろう」	榊原ゼミ (2年生)	10人
製作 : 「紙コップシューティング」	榊原ゼミ (1年生)	10人
体験 : 「なげて！たたいて！雪だるまをGET☆！」	権部ゼミ (1年生)	10人
バルーンのプレゼント	バルーンサークル	6人
		合計 67人

3. 地域連携自然保育推進事業

令和6年度は、事例研究会(R7.3.14)をにじのはな保育園(四日市)で実施をしました。また、2回目となる「みえの自然保育交流会(R7.2.1)」をフレンテみえで開催しました。三重県主催のみえ森林教育シンポジウム終了後に実施し自然に関わる様々な立場の方60名程と有意義な交流を行いました。

令和7年度からは、県事業としての自然保育の普及啓発に係るリーフレット作成に参画予定です。

VI. 津市委託事業

ホッとひろば事業：年3回開催 講師：橋本 景子(本学 非常勤講師)

子育てファミリーの「ホッとひろば」として、乳幼児を子育て中の保護者を対象とし、ほんのひととき子どもから離れてホッとでき、子育て中の親同志が交流できる場を3回提供しました。

第1回 (学童保護者対象)	9月30日(月) 10:00~12:00	参加者3名
第2回 (母親対象)	11月30日(土) 10:00~12:00	参加者7名
第3回 (父親対象)	令和7年2月16日(日) 10:00~12:00	参加者4名

介護福祉研究センター

I. 研究活動

1. 定例研究会

介護福祉研究センターでは、地域の福祉施設等の関係者や介護福祉関係で活動している方々や卒業生を研究員に招き、令和7年2月現在50名(内卒業生24名)の研究員が在籍しています。

今年度は3回の定例研究会を開催して情報交換を行い、地域還元できるよう学びがあります。場所は、原則介護福祉研究センターまたは介護実習室で行っています。

1) 第55回定例研究会 6月19日(水) 18:00~19:30

参加者 研究員：上山由紀子、中川千代、東海林藍、千草篤麿、川喜田多佳子、中嶋麻衣、
服部優子、寺家尚美、山本啓介、坂和香、ネパール・ニルジャラ、
西尾綾(庶務) 合計12名

・テーマおよび発表者：

障害学と青い芝の会の運動について ～発達保障論からの批判～

千草 篤麿 研究員(本学名誉教授)

- ・内容： 千草篤麿研究員より頼尊恒信が2015年に生活書院から出版した、「発達保障論」を全面的に否定した内容となっている「宗教学と障害学—障害と自立をとらえる新たな視座の構築のために—」に対し日本仏教社会福祉学会が学会奨励賞を与えたことに対するお考えをお話いただきました。

今回「青い芝の会」を初めて知った者も多く「障害者はありのままでよい」「介助者(健常者)は差別者としての存在を自覚し障害者の手足となって、同時に友人となって介助する」など、極端な考え方に一様に驚いておりました。障害に対しての治療は無意味ではありませんし、教育を受けなくてもよいということにはならないと思います。現にありのままを訴える当事者ほど教育をしっかりと受けている“ちぐはぐ”な状況に、なぜその思考になってしまったのか疑問に感じられました。参加者からは「とらえ方の違いで人の行動は変わる、もっとシンプルに考えたら付き合っていけるのではないだろうか」などの感想も寄せられました。また、今回の奨励賞のように“おすみつき”を与えることの責任についても意見が寄せられました。今回の発表では、障害者を取り巻く「考え方」の違いを知ることで、自分の考え方を客観的に見つめてみる必要性を感じることができました。



2) 第56回定例研究会 9月25日(水) 17:30~19:00

参加者・研究員：上山由紀子、長谷川恭子、中川千代、東海林藍、寺家尚美、坂和香、
久保朝水、片岡柚衣、近田泰貴、ネパール・ニルジャラ、植村民樹、
西尾綾(庶務) 合計12名

・テーマおよび発表者：

「サ高住での暮らし ～見守りを通して見えてきた入所者の思い～」 坂 和香 研究員

- ・内容： 大正時代からの長い歴史を持ち富田浜病院を母体にもつ、医療特化型サ高住「浜ゆり」での勤務体験から得られた、理想の介護観についてお話をいただきました。

サ高住の役割として、①サポートをすることが難しい家族に代わって入居者の様子を交代で見る、②入居者にとっての第2の家として安心して暮らせる場、③顔見知りの人(職員)がいることで家族のような安心感を提供できる、の3点が挙げられました。サ高住は介護保険施設ではなく、住宅としての機能を持つことから自由度は高い場所です。しかし、医療特化型ということで病院の延長線上にあることから、病院と混同してしまうためか「売店はないのか?」「そろそろ自宅に帰りたい」などの声も聴かれるとのことでした。

坂さん自身、こうした声に入居者様の家と思ってもらうにはと悩むことがあるということでした。介護保険施設よりはゆっくりと入居者様と関わることはできるようになりましたが、業務優先になってしまうことも少なくなく、その中で生まれた介護観は①入居者が安心して過ごせるケアを提供する、②自分の良心に恥じないケアを提供する、③入居者様が我慢せずに自分の思いを伝えられる関係性がもてる、という3点でした。忙しいながらも、入居者様を第一に考え一生懸命に向き合おうとする姿に、参加者からは「自分も明日から頑張ろうと思えた」などの声が多く聞かれました。その後、地域介護の在り方や、介護職とライフステージとの向き合い方などについても積極的に意見が交わされました。



3) 第57回定例研究会 令和7年2月20日(木) 17:00~18:30

参加者 研究員：上山由紀子、長谷川恭子、中川千代、東海林藍、千草篤磨、川喜田多佳子、杉本あゆみ、世古口正臣、寺家尚美、村尾悠、近澤明莉、西畑里咲、牧戸眞佐子、ネパール・ニルジャラ、樋口瑠奈、山本啓介、植村民樹、西尾綾(庶務) 合計18名

・テーマ及び発表者：

「Excelの表設計にみられる問題への一考察」 川喜田多佳子 研究員(本学准教授)
寺家 尚美 研究員(本学非常勤講師)

- ・内容： 高田短期大学介護・福祉研究第10号に掲載された実践報告について、実際にExcel表を動かしながらの研究会となりました。本日の講師2名はマイクロソフトの認定トレーナーであり、正しいマイクロソフトのアプリケーションの使用にこだわり研究を続けています。今回テーマとしたExcelは元々表計算ソフトでありデータを蓄積しておくものですが、ワープロのような使用をしているケースが多く見られるとの指摘がありました。作成したものをプリントアウトして、手書きをするのであれば問題なく使用できるが、Excel本来の機能であるデータの蓄積には適してはいない作りになっていることが多く、連続した数字の入れ方やチェックボックスや○をつける方式の資料の場合、PC上では手間のかかる入力が必要となります。Excelでつくるのであれば、Excel機能を利用した入力しやすい表を作る工夫が必要であるとの意見について「見た目の良さよりも、使う人のことを考えて作る」といった発表が印象的でした。参加者からは、データで送られてくる提出書類の雛形が使いにくく、書類を作成することがストレスになるとの意見があり、これについて心当たりのある参加者が多く頷く姿が見られました。

マイクロソフト社のアプリケーションにはWord、Excelの他にも様々なものがあり、Wordは文書作成、Excelはデータベースといった具合でそれぞれ目的が異なります。これらを正しく使う事で効率よく作業ができ、かつ、相手にわかりやすい資料を作ることができるという事を学ぶことができました。また、何事も基礎が大切であり、改めてWord、Excelの基礎を学びたいとの感想をいただきました。



II. 実施事業

1. 介護福祉セミナー

11月23日(土) 13:30~15:30 参加者: 24名

テーマ: 「足(爪)と靴から見直す介護予防」～健康の土台は足から～

講師: 東海林 藍 研究員(本学助教)

今年4月から本学教員として着任され研究員でもある東海林藍先生から「フットケア」についてわかりやすく楽しく講義していただきました。身体を動かすことや運動することは大切だが足に巻き爪や陥入爪、外反母趾等のトラブルがあるとバランスがうまく取れなかったり、痛みが生じたりして転倒につながりかえって健康が損なわれてしまう。しっかり足を見てきれいに洗って爪や皮膚を手入れしていくこと、足や足指の簡単な体操を始めることで介護予防を行う大切さを学びました。



III. 地域の介護福祉啓発活動

1. 地域の高齢者に対する介護福祉啓発活動

一身田桜町地区との連携事業「一身田桜町にここサロン」講師派遣

9月23日(月) 10:00~11:40 参加者: 19名

津市一身田桜町公民館にて桜町にここサロンに中川千代研究員が講師として参加しました。大河ドラマの主題歌から題名当てクイズをして主演俳優の名前を思い出す等のアイスブレイキングをしました。「フレイル予防」のチェックシートに記入し今後要介護状態の一手手前にならないための確認を行った後、折り紙で「おうぎ鶴」等を折り、指先と頭をしっかり使って良い刺激となり、楽しみながら熱心に取り組みをして喜んでいただきました。



2. 認知症サポーター養成講座 「まつさか幼稚園」

令和7年2月19日（水） 13:00～13:40 参加者：園児32名

「認知症サポーター養成講座」にまつさか幼稚園に行ってきました。学生ボランティアで上山ゼミの伊藤さん、平山さん、松尾さんも参加し、又教員は東海林研究員、上山研究員で園児と認知症の話を通して交流しました。幼児向けの認知症サポーター養成講座はあまり開催されていません。

何十年も前から令和7年には、医療や福祉、経済面等の広い領域に深刻な影響を及ぼすと言われてきました。今年はその令和7年を迎えました。認知症の増加も深刻な影響の一つです。認知症という病気や認知症の方との接し方をもっとすそ野を広げ知ってもらうことが大切です。

今回の「まつさか幼稚園」の訪問はその取り組みの一つです。そう組32名の皆さんに、高齢者の身体の変化や認知症の症状、認知症の方との関わり方を寸劇、パワーポイント、

クイズにて説明をしましたが、集中して話を聞いてくれました。最後には、松阪市のキャラクター「ちゃちゃも」に登場してもらい、楽しみながら学ぶことができましたと思います。話の内容は絵本として、子供たちに配りましたが、親子で絵本を読みながら、認知症の話をしてもらえるきっかけになればと思っています。この訪問は、中日新聞にも掲載されました。少しずつの積み重ねではありますが、「地域で共に安心して暮らせる社会」を目指して、これからも種まきをしていきたいと思っています。



令和7年2月28日 中日新聞



IV. 研究成果の発表

1. 介護福祉研究センター紀要「高田短期大学介護・福祉研究」第11号（令和7年3月発行）

執筆希望書を編集委員会で協議し執筆者を決定しました。研究論文1編、研究ノート1編、実践報告1編、授業実践報告1編に原稿依頼しました。

高田短期大学介護・福祉研究第11号執筆依頼一覧

*掲載順は各種別順

研究員名	単・共	原稿種別	表題	頁
杉本 あゆみ	単著	研究論文	エージェンシー育成に繋がるキャリア教育の考察 ～キャリア育成学科介護福祉コースの学生を対象として～	10
村尾 悠	単著	研究ノート	特別養護老人ホームにおける介護福祉士による 「医行為でない行為」の内容や頻度について調査	10
上山 由紀子	単著	授業実践報告	医療的ケア教育の問題と取り組み ～授業の一考察～	10
長谷川 恭子 東海林 藍	共著	実践報告	介護実習生が記述した実習日誌の現状と課題 ～「本日の目標」に焦点を当てて～	10

学内施設設備の整備事業の実績

2号館印刷機設置

施行業者 : デュプロ販売(株)
設置業者 : 2号館1階印刷室
施行費用 : 627,000円
施工時期 : 令和6年5月



図書館印刷機設置

施行業者 : リコージャパン(株)
施工場所 : 図書館
施工費用 : 388,696円
施工時期 : 令和6年4月



2号館233教室空調機器入替

施行業者 : (株)エリイ
施工場所 : 2号館 233教室
施工費用 : 860,000円
施工時期 : 令和6年10月



2号館大講義室プロジェクター設置

施行業者 : シンリョー特機(株)
施工場所 : 2号館 大講義室
施工費用 : 469,700円
施工時期 : 令和6年11月



たかたんフォレストフェンス設置工事

施行業者 : (有)松村土木
施工場所 : たかたんフォレスト
施工費用 : 550,000円
施工時期 : 令和6年9月



—高田中学校・高田高等学校—

命の大切さを考える教育

本校の建学精神である「仏教の教え、親鸞聖人の教えに基づく宗教的情操教育」を校訓として仏教教育による人間味の豊かさを求め、規律精神を基とした行動力の育成と基礎学力の充実錬磨に努め、広い視野から社会貢献できる人間の養成を目指した教育を実践しています。

月1回の本山参詣や週1時間の一般仏教の授業及び校外宿泊学習での平和学習等において自他共にかけがえのない「命」を尊重し、人間は一人で生きられない存在であり、他者と共感共有し支え合って生きる重要さに気づけるよう努めています。特にいじめの未然防止といじめを許さない、いじめをさせないことなどを視野に入れて、行事や授業に反映させています。また本山参詣で仏教講話を聴聞することを通して、聞くことの大切さ、その受容により共感する大切さを身につけることにつながると考えています。これらの体験活動を基盤として人権学習とも連携しあい、社会でのマナー、コミュニケーション能力を向上させ、自然との共生に関心を持って身近な日常生活の中で思いやりと慈しみのある生き方を涵養しています。



人権教育研修

基本方針

本校は、宗祖親鸞聖人の教えを建学の精神として、宗教的情操を養い、互いの人格・人権を尊重できる人物の育成に努めています。生徒たちには「うわさや偏見に流されず真実を確かめ、自分自身の考えを持つ」「差別に立ち向かい行動する力をつける」「他者の異なった価値観を尊重しながら仲間同士のつながりを強める」ということを具体的な目標として人権教育を実施しています。

●生徒への人権教育

①学年人権LHR：学年ごとに人権テーマを設定して、実施します。各クラスでのLHRなどを通じて、身近な人権課題を考える機会をつくり、日ごろから人権を意識するように努めています。

- ・7月2日（火）「願書・履歴書・面接と人権」 対象：高Ⅲ・6
- ・7月4日（木）「“ふつう”って何？～多様性について考える～」 対象：高Ⅰ・4

②文化祭の人権展示 9月10日（火）

- ・人権メッセージ（高Ⅲ・6、高Ⅰ・4、中2、中1）：テーマに従った人権メッセージを全員が作成して、展示発表しました。今年度のテーマは三重県人権センターが募集している「人間の尊さや自由と平等の大切さを訴えることにより、人権を尊重する社会をつくっていくために、身近に感じた（体験した）ことから自分はどう考え、どう行動するのか」で、学年別に代表作品を選出して応募し、中学1年の作品が採用されました。

③校外宿泊学習の平和学習：10月に、高IIは長崎、高5は沖縄、中3は広島と各地において平和学習のフィールドワークを行いました。

④地域の人権活動参加（中学校生徒会）

- ・10月中旬 人権標語の制作。
- ・11月27日（水）一身田中学校区子ども人権フォーラムへ生徒会役員5名が参加。

⑤ピンクシャツ運動（高校生徒会）：11月18日（月）～30日（土）に実施

⑥学年人権LHR（人権講演会）：2学期末考査後に、高校は学年別、中学は全体で実施。

- ・12月9日（月）1限 講師 本江優子さん（反差別・人権研究所みえ）
「社会へ羽ばたくみなさんへー“わたし”らしく生きるを考えるー」
対象：高III・6年
- ・12月10日（火）6限 講師 原田朋記さん（反差別・人権研究所みえ）
「部落差別を知っていますか？一部落差別のはじまりと現状や課題ー」
対象：中学生全体
- ・12月12日（木）4限 講師 原田朋記さん（反差別・人権研究所みえ）
「自分と向き合うことからはじめませんか？ー今もある部落差別の現実からー」
対象：高II・5年
- ・12月13日（金）6限 講師 保田明日美さん（みえのパラスポーツ）
「挑戦の先にある未来」
対象：高I・4年

⑦人権ウィーク「人権に関する授業」（全校生徒）：12月16日（月）～18日（水）

●教職員への人権研修

①各種の人権研修：人権教育推進担当を中心に積極的に参加して成果を職員会議などで還元しています。

- ・5月17日（金）第1回地区別人権教育研修会 参加：人権教育推進担当1名
- ・5月21日（土）津人教一身田支部総会・記念講演会 参加：人権教育推進担当1名
- ・6月3日（月）管理職人権教育研修会 参加：校長
- ・6月14日（金）「せいかつ」実践交流会 参加：人権教育推進担当1名
- ・6月27日（木）人権教育推進委員会等代表者研修会 参加：人権教育推進担当1名
- ・7月31日（水）人権広場および地区別人権学習交流会 参加：人権教育推進担当1名
- ・9月7日（土）津人教研究大会 参加：人権教育推進担当1名
- ・9月27日（金）第2回地区別人権教育研修会 参加：教頭1名、
人権教育推進担当1名
- ・10月20日（日）三重県人権・同和教育研究大会 参加：人権教育推進担当2名
- ・11月19日（火）「特別支援学校研修会（三重県立盲学校）」 参加：人権教育推進担当1名
- ・12月16日（月）人権研修「武器としての国際人権」 参加：人権教育推進担当1名
- ・令和7年1月21日（火）第3回地区別人権教育研修会 参加：校長1名、
人権教育推進担当1名
- ・令和7年2月18日（火）私立学校人権教育研修会（三重県私学協会主催）
参加：教員36名

②高田学苑教職員人権研修：8月20日（火）実施。

第一部 「ハラスメントのない職場づくりのために」

萩原くるみさん（男女共同参画センター前所長）

第二部 「人権が尊重される社会をつくるために

～人権感覚を磨き、差別解消に向けた取組を積極的に行いましょう～」

鈴木巧（本校教諭）

③人権フィールドワーク「三重県立城山特別支援学校の訪問」：8月27日（月）に実施。

参加：人権教育推進委員会と有志教員の合計29名

④高田中・高等学校人権研修

・初任者研修「人権教育推進」：4月30日（火）に実施。参加：今年度着任した教員6名

・人権ウィーク「人権に関する授業」（全教職員）：12月16日（月）～18日（水）

参加：全教員

生徒が人権について考えるきっかけとするために、期間中の授業において各教員の独自の視点から人権に関する授業を行いました。

人権感覚を磨くことは今の自分を見つめ直すことであり、他人任せにすることでは身に付きません。様々な課題を抱える厳しい現代社会の中でいかに生きるかを模索し、今後も地域や家庭と連携を取りながら人権教育を着実に進めていきたいと考えています。



スーパーサイエンスハイスクール

スーパーサイエンスハイスクール（SSH）は、先進的な科学技術、理科・数学教育を通じて、生徒の科学的な探究能力等を培うことで、将来社会を牽引する科学技術人材を育成するための取組です。SSHでは「科学への夢」「科学を楽しむ心」を育み、生徒の個性と能力を一層伸ばしていくことを目指しています。また、大学や研究機関等とも連携して先進的な理数系教育を実施し、魅力的なカリキュラムを開発するなど、科学技術に夢と希望を持つ、創造性豊かな科学技術人材の育成に取り組んでいます。

本校は「先鋭的な探究能力と包括的な科学的知識によって創造的に社会問題を解決する人材の育成」を研究課題に掲げ、様々な活動を行っています。

●具体的な取組内容と結果

①中高6カ年を貫く探究プログラムの開発

科学的な探究を行うことを可能とすることにより効果的な探究プログラムの開発と、科学技術人材の育成。主体性、創造性及び問題解決能力を身につけさせる。計画の通り実施した。

②理科教育課程の確立

中高6年間における、理科の分野間や中高の学年間で内容を適切に横断した、包括的で幅広い理学的知識・科学的知識の育成と効果的な教育課程の開発。6カ年指導ロードマップ及び知識習得ルーブリックの開発・実施に関して、計画の通り実施した。横断的実験プログラムに関して、概ね計画の通り開発を進めた。

③科学オリンピックに関する活動

対策講座や体験講座を課外活動として行うことで、各種科学オリンピック等への参加を促すと共に、生徒の理科への主体性に与える影響・効果の検証。計画の通り実施した。

④科学系部活動の充実

科学系部活動を、さらに充実した発展的なものにするを目的として、教員の適切な働きかけのもとでの充実した活動が、生徒の理科への主体性にどのような影響・効果を与えるかの検証。部活動支援に関して、計画の通り実施した。

⑤多様な教育課程外活動

教育課程内だけでは行いきれない、多様な活動や実験を行うことを目的に、従来から行われている高大連携講座の実施と改善を行う。また、科学一辺倒とならず、幅広い文理融合的な総合知を身に付けるために、教科横断的な放課後課外講座等の学習プログラムを開発。土曜実験教室に関して、当初の計画からの変更はあったが、内容を実施した。水曜特別講座、高大連携講座、夏期特別講座については、概ね計画通り開発を進めた。

⑥運営指導委員会の開催。計画の通り実施した。

⑦成果の公表・普及。概ね計画の通り実施した。

⑧事業の評価。計画の通り実施した。

⑨報告書の作成。計画の通り実施した。

詳細は、全職員に配布した研究開発実施報告書を御参照ください。

本校は、SSH指定の間、先進的な理数教育を実施するとともに、高大接続の在り方について大学との共同研究や、国際性を育むための取り組みを推進します。また創造性、独創性を高める指導方法、教材の開発等の取り組みを実施します。

ユネスコスクール

本校では、2017年度からCO₂濃度測定を基本とする地球温暖化防止を目的とした、環境教育に取り組んできました。そしてその活動が評価され、創立150周年を迎えた2022年11月文部科学省よりユネスコスクールへの加盟が承認されました。ユネスコスクールは、ESD (Education for Sustainable Development) (持続可能な開発のための教育) の推進拠点、つまりは、「持続可能な社会を目指して (SDGs に示された目標達成のために) 行動できる人材を育てるための教育機関」として位置づけられています。

そして、ユネスコスクールの理念に基づき活動を継続して行ってきた結果、2024年12月、本校の「環境学習」の取り組みは、環境省から評価を頂き、環境大臣より「2024年度気候変動

アクション環境大臣表彰」及び「ESD実践動画100選認定」の2つの賞を頂きました。

本校では、環境学習以外にも沢山のユネスコスクールとしての下記の活動が行われています。

- ・ ペットボトルキャップの回収運動（リサイクル運動）
CO2削減への貢献と世界にワクチンを届ける
- ・ 防災教育
- ・ ユニクロとのコラボ企画 届けよう服のチカラ「プロジェクト」
- ・ トランスジェンダーに対する理解
- ・ 文化財教育と保護活動 など

“Think Globally. Act Locally.”（地球規模で考え、足元から行動を起こせ）という言葉通り、世界規模の課題の解決法をいきなり考えてもどこから手を付ければよいか解りません。しかし、私たちが普段生活している学校という身近な場所で生徒たちがアクションを起こすことで、課題解決につながる新たな価値観や行動が生徒たちの中に生まれることを期待しています。



キャリア教育

社会体験等の校外活動は、他者の存在の意義を認識し、向社会性を高めたり、社会との関係を学んだりする機会となり、将来の社会人としての基盤づくりともなると考えられています。その基本に基づき、本校は、ほとんどの生徒が進学を希望している関係上、進路情報の豊富な企業や大学と連携し、自己研鑽の一助としています。

進路・職業観を考える学習会等

	藤田医科大学連携講座	進路ガイダンス
対象	高Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ年	高Ⅰ・Ⅱ年・Ⅲ年
内容	医療技術職の現状説明	高Ⅰ：分野別進路選択ガイダンス 高Ⅱ：大学・短大・専門学校の個別相談会 高Ⅲ：大学・短大・専門学校の個別相談会
実施日	5月実施	高Ⅰ：3月実施 高Ⅱ：12月実施 高Ⅲ：5月実施
	名古屋産業大学連携講座	四日市看護医療大学
対象	高Ⅰ(4年)	高Ⅰ・Ⅱ
内容	現代ビジネス学部の教員によるユネスコスクール(環境学習)の活動	ミニオープンキャンパスの開催
実施日	毎月実施	12月実施

	高田短期大学	医療講座
対 象	高Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	高Ⅲ（6年）
内 容	子ども学科、キャリア育成学科（オフィスワークコース・介護福祉コース）による模擬授業体験	現役医師の声 ・医師のやりがい ・三重県内における地域医療 地域医療の現場体験（紀南病院見学）
実施日	6月実施 3月実施	5月・6月・8月実施

高4：東京キャリア研修

- ・ 7月23日（火） 東京大学訪問 現役東大生との交流会及びキャンパスツアー
宇野健司先生による模擬講義
ホテルにて関東地方に在学中の本校卒業生と座談会
- ・ 7月24日（水） 探究活動 班ごとに大学や企業へ訪問または街頭調査
- ・ 7月25日（木） 国会議事堂見学

東京へ実際に赴いて研修を行えたことで、文理選択を控えた4年生にとって、進路意識が向上し、将来のことを考える大変有意義な研修となりました。



中1：比叡山校外宿泊学習

- ・ 8月7日（水） 横川参詣、西塔諸堂参詣（浄土院・常行三昧堂・法華三昧堂・釈迦堂）
ホテルにて本校教員の講話拝聴
仏青インターアクト部とのレクリエーション
- ・ 8月8日（木） 東塔諸堂参詣（大講堂・戒壇院・阿弥陀堂・大乘院）
国宝殿拝観 探究活動まとめ・発表準備
ホテルにてタブレットを使用する探究活動発表
- ・ 8月9日（金） 青蓮院・知恩院・法界寺（親鸞聖人生誕の地）拝観

3日間、生徒は笑顔も多く行程を楽しむと共に、友人との関係を深めることができていたようです。また、講話の際には真剣な表情で耳を傾け、熱心に学ぼうとする姿が見られました。今回の比叡山宿泊学習での学びを活かし、今後のさらなる活躍を期待したいと思います。



中2：志賀高原校外宿泊学習

- ・ 8月21日（水） ロープウェイにて竜王山頂へ 様々な高山植物や自然と触れ合う
ホテルにて志賀高原環境ガイドの先生より志賀高原やユネスコエコパークに関する講義を拝聴
- ・ 8月22日（木） ガイドさんの解説のもと、志賀高原散策（雷雨予報のためコース短縮）
夕食は屋外にてバーベキュー
- ・ 8月23日（金） 善光寺参拝 その後、善光寺から長野駅まで班別研修（自由散策）

3日間の校外宿泊学習を通じて、自然について考えるきっかけを得たことはもちろん、周囲と協力することの大切さを学んでいました。この経験を今後の学校生活に活かしてくれるものと期待しています。



大学等との連携事業

学習・進学意欲の向上、各分野への興味・関心の深化を目的として、各学年・コースで、三重大学や鳥羽水族館等と連携事業を毎年実施しています。また、豊田工業大学の講座や鳥羽水族館での研修講座も行いました。各大学の連携事業の詳細は以下の通りです。

1. 依頼講座数 : 18講座（講師18名） ※内訳
- | | |
|--------|--------|
| 三重大学 | : 16講座 |
| 豊田工業大学 | : 1講座 |
| 鳥羽水族館 | : 1講座 |

2. 令和6年度に実施した講座の実績と内容

●三重大学

・人文学部

①文化学科日本研究 森正人 教授

「ディズニーランドと現代社会」

令和7年2月17日（月） 本校3号館2階被服室

高1年7名・高11年18名・高4年3名

日本人に大人気のテーマパークであるディズニーランドの入念な仕掛けと空間の管理、仕掛けられている魔法について説明を聞き、ディズニーランドの空間がどのような形で現代社会の中に浸透しているのかなど、当たり前の価値観を問い直す必要性を考えました。

②文化学科アメリカ研究（アメリカ史） 森脇由美子 副学長・教授

「ヒーローから見たアメリカの歴史—19世紀ニューヨークの社会—」

9月27日（金） 本校3号館2階被服室

高1年6名・高4年2名

19世紀のアメリカ民衆のヒーローが紹介され、スポーツや舞台などで活躍した彼らはなぜ人々を惹きつけたのか。ヒーロー像を通して、普通の人々が生きた社会の現実に迫りました。

③法政研究 前田定孝 准教授

「しのびよるPFAS汚染」

11月18日(月) 本校3号館2階被服室

高11年19名・高5年2名

永遠に残る化学物質「PFAS(パーファス)」による、水道水の汚染が問題になっていることを学びました。

・教育学部

④国語教育国文学(近現代) 和田崇 准教授

「コントで学ぶ文学理論」

7月3日(水) 本校2号館2階HR

高11年4名・高1年2名・高4年4名

文学理論を用いて小説を学ぶ入門として、小説と同じく物語として作られたお笑いのコントで文学理論を学び、それから小説の読みにつなげていきました。

⑤学校教育 南学 教授

「心理学はどんな学問か？」

7月18日(木) 本校3号館2階被服室

高11年16名・高1年8名・高5年2名・高4年13名

「心理学」という学問領域があることは知っていても、心理学のイメージが独り歩きしているため、ごく簡単に心理学の見方や考え方の説明を受けました。

⑥英語教育 中川右也 准教授

「リスニングの極意」

8月27日(火) 三重大学

高11年55名・高1年8名・高5年2名・高4年15名

大学入試共通テストレベルのリスニング対策講座を行いました。その後、研究室見学を行いました。

⑦社会科教育自然地理学・水文学 宮岡邦任 教授

「地域の防災・減災」

11月27日(金) 本校3号館2階被服室

高1年5名・高11年2名

伊勢平野のような沖積平野における一般的な自然災害の発生メカニズムと災害リスクについての講義とグループワークを行いました。身近な地域の地形図、景観写真などを使いながら、実際にどのような災害がどこで発生する可能性があるのか？防災・減災につながる現実的な取り組みは何か？などについて議論しました。

・工学部

⑧工学部講演会・学部説明会 藤原裕司 准教授・工学部各学科女子学生5名

「日本の女性活躍の現状と工学部の女子学生支援と増加の取り組み」(講演)

7月3日(水) 本校3号館3階物理室

高11年16名

藤原准教授の講演の後、機械工学コース、電気電子工学コース、応用化学コース、建築学コース、情報工学コースに所属する女子学生による研究発表と学科説明を行いました。その後、参加生徒との個別懇談を行いました。



⑨学研究科電気電子工学専攻（電気システム工学） 駒田諭 教授
「レゴを使ったロボットプログラミング」

7月30日（火） 三重大学

高11年2名・高1年25名・高4年6名

LEGOロボットを組み立て、コースに沿って走るようにプログラミング実習を行い、ロボットの制御について学びました。その後、工学部研究科研究室で研究中の各種ロボットのデモンストレーション見学を行いました。



⑩学研究科情報工学専攻（知能工学） 松岡真如 准教授
「リモートセンシングとデータサイエンス」

12月17日（火） 本校3号館3階物理室

高1年5名・高4年2名

地球環境問題の解決や農林水産業に役立てるため、人工衛星やドローンを使って都市や農地、森林などを観測するリモートセンシングについて、物理学の基礎と関連づけながら学び、リモートセンシングが実社会でどのように利用されているのかを概観しました。パソコンなどを利用して、データサイエンスの視点からリモートセンシングのデータ処理に関する演習を行いました。

⑪工学研究科物理工学専攻（ナノ工学） 藤原裕司 准教授
「物理基礎実験」

8月19日（月） 三重大学

高11年23名・高1年3名・高5年3名・高4年3名

はんだで音を光に変えて伝える光通信回路を制作しました。

⑫工学研究科物理工学専攻（ナノ工学） 藤原裕司 准教授
「磁石の話」

11月13日（水） 本校3号館3階物理室

高1年3名・高4年5名

カードなどに多く使われている磁石について、演示実験を体験しながら、身の回りにある磁石の働きについて考えました。

・生物資源学部

⑬生物資源学研究科生物圏生命科学専攻（生命機能化学） 三宅英雄 准教授
「光るタンパク質を調べよう」

8月23日（金） 三重大学

高11年5名・高1年2名・高5年2名・高4年4名

ゲンジホタルからルシフェラーゼ遺伝子を単離して作製したルシフェラーゼの組換え酵素を様々な条件で反応させ、その時の様子を観察しました。その後、研究室見学を行いました。

⑭生物資源学研究科生物圏生命科学専攻（生命機能化学） 荻田修一 教授

「PCRによるDNAの増幅実験」

8月26日（月） 三重大学

高1年2名・高5年6名・高4年6名

ヒトの第一染色体にある、犯罪捜査や親子鑑定、個人識別に使っているVNTRという領域をPCRという技術を使って増幅し、観察する実験を行いました。その後、研究室見学を行いました。



⑮生物資源学研究科生物圏生命科学専攻（生理活性化学教育研究分野） 稲垣穰 教授

「ウイルス感染の仕組み」

11月5日（月） 本校3号館2階被服室

高1年15名・高4年5名

インフルエンザウイルスやコロナウイルスを例に挙げ、ウイルスの特徴や仕組みを学び、治療薬や感染予防について考えました。

・高等教育デザイン・推進機構

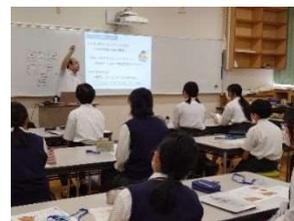
⑯全学共通教育センター 太城康良 教授

「医学・医療を支える解剖生理学」

7月17日（水） 本校3号館2階被服室

高4年19名・高1年10名

解剖生理学から呼吸器系を例に大学の授業を体験しました。さらに、高校の学習内容が大学の学術研究にどう生かされるのかも紹介され、医療系・生物系、理系・文系に限らず、広く解説されました。



●豊田工業大学

⑰工学部電子情報分野情報記録工学研究室 栗野博之 教授

「最先端エレクトロニクスの基本は電磁気学」

10月25日（金） 本館3階大会議室

高11年38名・高5年3名・高4年6名

ネオジム磁石と銅線と乾電池だけでできる単極モーターを制作しました。回転子となる導体と磁場を発生する磁石が一緒になって回転／移動するという不思議で極めて興味深いモーターです。制作を通して、電流と磁場についての理論と現象を学びました。

●鳥羽水族館

⑱株式会社鳥羽水族館 三谷伸也 取締役 生物多様性保全推進室長 学芸員

「ウニの発生実験」

8月26日（月） 鳥羽水族館

高5年30名・高11年17名

事前講義の後、ウニの発生実験観察およびバックヤード見学を行いました。ウニを刺激して精子、卵子を出させ、受精させ、細胞分裂や胚の形成を顕微鏡で観察しました。受精膜の形成（数分後）→細胞期（30～60分後）→細胞期（1時間前後）→桑実胚（数時間後）→胞胚（半日後）の各ステージが確認できました。

部活動

令和7年3月現在のクラブ活動所属生徒数				
高等学校	文化部	22部	620名	(男190名・女430名)
	運動部	16部	584名	(男346名・女238名)
	生徒会直属部、同好会、愛好会	8部	151名	(男51名・女100名)
	計			1,355名
中学校	文化部	9部	215名	(男125名・女90名)
	運動部	11部	326名	(男200名・女126名)
	生徒会直属部、同好会、愛好会	7部	56名	(男13名・女43名)
	計			597名

主な活動実績はつぎの通りです。

●高等学校

【全国大会】

- ・令和6年度全国高等学校総合体育大会
 - 新体操部 男子個人総合優勝 種目別リング・種目別ロープ優勝 III F 山本響士朗
 - 陸上部 男子3000m障害出場
 - なぎなた部 個人・演技出場
 - 女子柔道部 団体戦・個人戦出場
 - 女子卓球部 ダブルス出場
- ・第40回全国高等学校新体操選抜大会
 - 新体操部 男子個人総合優勝 III F 山本響士朗
- ・第58回全日本高等学校馬術競技大会
- ・第35回全日本高等学校馬術選手権大会
 - 馬術部 団体戦・個人戦出場
- ・第78回国民スポーツ大会
 - 新体操部 新体操大会団体戦6位入賞
 - 馬術部 馬術大会個人戦出場
- ・第20回全国高等学校なぎなた選抜大会
 - なぎなた部 個人・団体戦出場
- ・第47回全国高等学校柔道選手権大会出場
 - 女子柔道部 個人・団体戦出場
- ・第48回全国高等学校総合文化祭
 - 演劇部 演劇部門優良賞
 - 文芸部 個人出場
 - 放送部 個人出場
 - 将棋部 団体戦・個人戦出場
 - 囲碁同好会 個人戦出場
 - 書道部 出場
- ・第70回全国高等学校演劇大会
 - 演劇部 出場

今年度は4年ぶりに一身田地区自治会（桜町・中区・北区）の地域住民約30名も参加していただき、消防による防災講話や非常用備蓄食品（白い小箱）の贈呈式を行いました。

●防火・防災管理講習および自衛消防業務講習の受講

- ・防火・防災管理新規講習 1名
- ・自衛消防業務新規講習 3名
- ・自衛消防業務再講習 1名

本校では以上の取り組みによって、予測不可能な緊急事態が発生した場合でも、災害等に対する正しい知識に基づき、生徒が自ら冷静な判断力、速やかな行動力を発揮できるよう、防災意識の高揚に取り組むべき事業を展開しています。

学校の「安全と安心」を生徒・保護者に提供できるよう努める

生徒を取り巻く環境は、教育・成長の観点だけでなく、その健康・安全面が重視されます。かつては個人的な疾患、不慮の事故など学校が積極的に対応できない事柄が生徒の安全面、健康面の問題でした。しかし、悪意ある攻撃が未成年の生徒や、学校という組織に向かうことも近年では目にする機会がふえてしまっています。学校という組織が、生徒の健康や安全に積極的に取り組むべき事柄は多くなり、学校安全管理の重要性が増していると言えます。従来までの交通ルール・公共マナー遵守の呼びかけ、自転車の校内安全点検、ヘルメット着用の校内義務化などだけでなく、新たに警備員を学校におき常駐させています。外部からもたらされる危険を排除し、注意の行き届いた学校環境の構築が必要です。

また生徒だけでなく保護者の精神面における支援が必要となっています。孤独化しやすい現代社会は、多感な中高生だけでなく、保護者にとっても教育問題を相談できる環境が少なく、家庭環境の不安定化は、生徒の精神的成長に危機的な影響を与える場合があります。自死防止、引きこもり防止、いじめ防止と心の成長を目的とするはたらきかけは学校の中だけにとどまらず、社会の様々な支援活動と連携を取る必要があります。本校では以下のような取り組みを行っています。

●学校内外の相談窓口、支援機関と連携を積極的にとりつつ、生徒や保護者を対象としたスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを活用

●スクールガーディアン、スクールサインなど民間サービスの活用

●ICT機器を活用したアンケートや連絡を定期的を実施

このように一人ひとりの生徒・保護者の声に耳を傾け、生徒や保護者が孤立することないように、また心の痛みを訴え出ることが出来るように見守り活動を続けています。

●長期休暇中の心身健康アンケートの実施と学校以外の相談窓口の周知の徹底

長期休暇中に孤立し相談さえできない状況が生まれないう、担任・学年先生とのつながりのきっかけを作る、また匿名で相談できる外部相談窓口の紹介チラシを電子配布しています。

このほか、社会生活面においては、以下のような取り組みを行いました。

- ・4月 携帯電話・スマートフォンの使用マナーやネットワークにつながることの利便性、SNSの危険性に関する「スマホ携帯安全教室」 対象：中高新入生
- ・12月 学校薬剤師の秦賢司先生による薬物乱用防止教室「薬の正しい使い方」 対象：高Ⅲ・高6
- ・2月 村林法律特許事務所の村林優一先生による講演「有権者としての心構え等について」 対象：高Ⅱ・高5

次年度は、同様の行事を開催すると共に、令和7年5月に中学生全体を対象とした交通安全教室の実施を予定しています。

生徒健康管理対策

- ・学校校務支援システムBLENDを活用した「生徒健康管理」の継続
- ・様々な感染症対策として、学校内に嘔吐物処理セット、救急セット配備。
- ・校内で緊急時の事故等救急体制の見直し（AED配置の確認等）。
- ・メンタルヘルスサポートして、教育支援委員・養護教諭・スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーとの情報共有、連携強化。



ポストコロナ後の学校保健は、健康リテラシーの向上を目的として健康的な生活に関する生徒自身の健康管理能力を育てることに注力を注いでいきたいと思えます。

【高等学校】 令和6年度学校管理下における場合別負傷・疾病について													
発生件数：224件		給付金額：5,420,136円				障害見舞金：2,250,000円				3月17日現在			
場合別	骨折	捻挫	脱臼	挫傷打撲	靭帯損傷断裂	挫刺	擦過傷	歯牙破折	負傷計	外部衝撃、相当の運動量、心身に対する負担の累積に起因する疾病	負傷に起因する疾病	疾病計	負傷・疾病合計
体育保健体育	18	20	6	11	3				58			0	58
HR活動	1	1		1					3			0	0
計	19	21	6	12	3				61			0	61
文化的行事・修学旅行											1	1	1
体育祭		1							1				1
球技大会	3	2		3					8				8
計	3	3	0	3	0	0	0	0	9	1	0	1	10
体育的部活動	32	38	3	27	12	2	2		116	5	8	13	129
文化的部活動	1								1				1
計	33	0	0	0	0	0	0	0	117	6	8	14	131
休憩時間中	1	1							2				2
屋食時休憩時間中									0				0
始業前の特定時間中				1					1				1
授業終了後の特定時間中		1							1				1
計	1	2	0	1	0	0	0	0	4	0	0	0	4
登校中	4	4		3	1	1			13				13
下校中	2			1	1		1		5				5
通学に準ずるとき													
計	6	4	0	4	2	1	1	0	18	0	0	0	18
合計	62	30	6	20	5	1	1	0	209	7	8	15	224

【中学校】 令和6年度学校管理下における場合別負傷・疾病について											
発生件数：59件		給付金額：1,389,338円				3月17日現在					
場合別	骨折	捻挫	脱臼	挫傷打撲	靭帯損傷断裂	負傷計	外部衝撃、相当の運動量、心身に対する負担の累積に起因する疾病	負傷に起因する疾病	疾病計	負傷・疾病の合計	
体育保健体育	6	4	1	3	2	16			0	16	
競技大会・球技大会	2	2				4			0	4	
その他集団宿泊的行事		2		1		3	1		1	4	
体育的部活動	4	5	1	6		16	4	1	5	21	
休憩時間中	1	2		2		5	1		1	6	
屋食時休憩時間中				1		1			0	1	
登下校中	1	2		2	2	7			0	7	
合計	14	17	2	15	4	52	6	1	7	59	

目的

国際感覚豊かな人間育成のため、授業や諸行事に参加しながら異国の学生生活を体験し、友好を深めること。
互いの生活習慣や文化を学び、今後の交流振興に貢献すること。
受入家庭が、生徒とともに学び、生活することにより異文化理解を深めていくこと。

イギリス語学研修

イギリス語学研修は、令和2年度以降、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止していましたが、令和6年度5年ぶりに実施することができました。研修場所はロンドンの北60km位のところに位置するホカリル・アングロヨーロピアン・カレッジで、寮滞在をしながら、現地の語学学校インターナショナルクラスで他国の生徒とともに学ぶ英語学習を主眼に置いた研修プログラムです。参加した27名は、英語の運用能力の向上や英語学習への意欲を育み、生徒個々人が他国の生徒との交流を通して積極的に活動を行いました。

7/14 (日)	中部国際空港 中部国際空港発 シンガポール着 シンガポール発	08:00 10:25 16:00 23:30	SQ671 SQ322	集合、チェックイン 空路、シンガポールへ 到着後乗り換え 空路、ロンドンへ
7/15 (月)	ロンドンヒースロー着 研修地	05:55 午後		到着後入国審査、研修先へ 入寮、周辺散策など
7/16 (火) ～ 7/28 (土)	研修地			語学研修プログラム
7/29 (日)	ケンブリッジ ロンドンヒースロー発	終日 20:35	専用車 SQ319	エクスカーション後、空港へ 出国手続き後、シンガポールへ
7/30 (火)	シンガポール着	16:45		到着後、乗り換え
7/31 (水)	シンガポール空港発 中部国際空港着	01:20 09:00	SQ672	空路、中部国際空港へ 到着、解散

オーストラリア交換留学

令和6年3月にオーストラリアのセントモニカ校・パレード校への訪豪プログラムを実施し、27名が研修に参加しました。また、今年度に入り、9月に本校生徒がオーストラリアのパレード・セントモニカ校の生徒23名を受け入れ、本校の授業を一緒に受講し、ホームステイを通じて異文化を体験しました。

2024年度オーストラリア交換留学（9月受け入れ）日程

日程	スケジュール
9/15（日）	09:05 中部国際空港到着 11:00 高速船で津へ 11:45 なぎさまちにてホストファミリーと対面、ホストと共に
9/16（月）	ホストファミリーと共に
9/17（火）	08:50 入校式 09:30 校内見学 10:30 本山参詣 11:55 授業参加 12:45 ホスト生と共に昼食 13:15～15:05 授業参加 【放課後】希望する部活動へ
9/18（水）	08:50～15:05 授業参加 【放課後】希望する部活動へ
9/19（木）	京都研修
9/20（金）	伊勢・鳥羽研修 【放課後】希望する部活動へ
9/21（土）	08:50～12:45 LHR 【放課後】14:00 お別れ会
9/22（日）	ホストファミリーと共に
9/23（月）	ホストファミリーと共に
9/24（火）	08:50～15:05 授業参加 【放課後】希望する部活動へ
9/25（水）	【P校】 05:40 なぎさまち集合 06:00 高速船でセントレアへ 10:30 中部国際空港発、シンガポール、メルボルンへ 【M校】 06:45 津駅東口集合、近鉄で名古屋へ（セントモニカ高校）



留学生受け入れ

令和5年9月から1年間、スイスからの留学生1人を受け入れました。高5年に在籍し、授業や学校行事等に共に参加し、意欲的に授業や学校行事に取り組みました。

日本語の語学力も格段に向上し、日頃から日本語を正確に使用しようと努力する姿勢が見られ、本校生徒に取りましても留学生との交流を深めることで国際理解の多くの機会が得られました。

約1年間の留学期間を終えて、令和6年7月に帰国しました。

オーストラリアとのオンライン交流会

本年度7月23日(火)・24日(水)に本校の姉妹校であるセントモニカ高校とオンライン交流会を行いました。英語部・中学3年生・高校1年生・高校2年生ののべ49名が参加しました。セントモニカ高校の生徒たちからは、本校の部活動やその活動時間、放課後の過ごし方などについての質問があり、本校の生徒たちからは、メルボルンの気候や現地での流行についての質問をしていました。

また、彼らの身の回りで流行っている音楽や、マンガ、アニメなどのトピックなどについても語り合い、有意義な交流となりました。各自、現在の自身の英語力を振り返り、今後の英語学習や本校の国際交流教育活動への参加の意欲が高まるきっかけとなる貴重な経験となったように思います。

イングリッシュ・キャンプ

本校ALTに加え、外部からのゲストALTを講師として迎え、高校1年生II類・特別選抜クラスの生徒を対象に、毎年夏に「イングリッシュ・キャンプ」を実施しています。

生徒達は、オール・イングリッシュで様々なアクティビティに取り組み、1学期に授業を通して準備してきたプレゼンテーションを保護者参観で発表するなど、英語や異文化への興味・関心を深め、スピーキング力を高める良い機会となっています。

今年度は7月24日(水)25日(木)の2日間の日程で行い、生徒同士が親睦を深めながら、日頃の学習成果を存分に発揮しました。



2024フォーミュラ1日本グランプリ (in Suzuka) 通訳ボランティア

4月5日(金)～7日(日)に鈴鹿サーキットで開催されたフォーミュラ1日本グランプリで、来場する多数の外国人に対応する通訳ボランティアを本校生徒が行いました。

伊勢鉄道の鈴鹿サーキット稲生駅と近鉄白子駅・伊勢若松駅・平田町駅に分かれて3日間でのべ55名の有志が各駅の駅員さんと共に、駅で困っている外国からのお客様に丁寧に対応しました。

本校生徒にとっては、実践的な英語運用の場であり、それぞれの駅長様からは感謝の言葉をいただき、大きな地域貢献をする機会となりました。

オーストラリア交換留学(訪豪)

令和7年3月14日～29日にオーストラリア交換留学(訪豪)プログラムを実施し、13名の生徒が研修に参加しました。

2024 年度オーストラリア交換留学(訪豪)日程

日程		スケジュール
3月14日	金	06:00 なぎさまち出発 10:20 中部国際空港出発 シンガポールを経由しメルボルンへ
3月15日	土	08:15 メルボルン・タラマリン空港到着 10:00 ホストファミリーと対面
3月16日	日	ホストファミリーと共に
3月17日	月	08:50 オリエンテーション・歓迎式 11:05 ~ 授業参加 15:15 ホスト生と共に下校
3月18日	火	08:50~15:15 授業参加
3月19日	水	メルボルン市内で研修 10:30~13:50 City Ramble 15:30 下校
3月20日	木	08:50~15:15 授業参加伊勢・鳥羽研修
3月21日	金	Parade 校: Art Vo (アートギャラリー) Monica 校: 授業参加
3月22日	土	ホストファミリーと共に
3月23日	日	ホストファミリーと共に
3月24日	月	08:50~15:15 授業参加
3月25日	火	Parade 校: 授業参加 Monica 校: Art Vo、ヤラ川リバークルーズ
3月26日	水	09:00~15:30 メルボルン博物館
3月27日	木	08:50~15:15 授業参加
3月28日	金	08:50~11:00 授業参加 13:00 タラマリン空港へ出発 16:40 タラマリン空港出発 シンガポール経由で中部国際空港へ
3月29日	土	08:30 中部国際空港到着 10:00 高速船でなぎさまちへ 10:45 なぎさまち到着・解団式

大志万学院来校

令和7年1月16日にブラジル サンパウロから大志万学院30名が来校し、本校の生徒とともに3限目～6限目の授業を受け、ランチタイムに交流を深めました。本校にとっては初めてのブラジルとの交流機会です、有意義な経験となりました。

ターム留学

令和7年1月下旬から3月29日までの約9週間中学校3年生8名が、ニュージーランド・オークランド近郊に位置する4校に中期留学をしました。すべてが新しい環境で生活を行う中で、8名は大きなトラブルもなく充実した留学期間を過ごしました。

学校自己点検・学校関係者評価

学校自己評価

学校自己評価については、例年「学校の教育目標や教育活動の内容・方法、教育成果、学校の管理運営などについて、より一層の教育活動の充実を図る」という趣旨で教育活動全般にわたる自己点検・評価を行い、継続的な改善更新、改革を図っています。昨年度は、評価項目の見直しと改善を行いました。

令和6年度の目標	
目指す学校像 (教育理念)	生徒・保護者・社会の期待に応え、伝統を重んじ信頼される私学を目指す。 校訓「言行忠信 表裏相応」の精神のもと、人間性豊かな人材を育成する。 高邁な志と社会に貢献できる人材を育成する。 自分の夢の実現に向けて、自ら学び、自己を律し、行動できる人材を育成する。
重点努力目標	人権教育の推進、進路指導の徹底、基本的生活習慣の確立、規範意識に則った行動の育成、授業の充実と学力の向上・錬磨、環境・安全教育の推進
点検・評価の日程	
6月	前年度学校自己評価への評価結果報告及び継続的取組の促進
12月	評価項目の確認と評価方法の決定
令和7年3月末	評価実施
令和7年4月	集計と分析
令和7年5月	職員への結果の公表、評価結果の公表

学校関係者評価委員会

自己評価や保護者、学校関係者による評価の実施・公表により、適切に説明責任を果たすとともに、保護者や地域住民からの理解と参画を得ながら、学校・家庭・地域の連携協力により生徒の穏やかな成長を図り、健全な学校づくりを推進することを目的としています。

なお、評価委員は委員数8名（教育関係者、地元企業、地域自治会、保護者会）から成り立っています。新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止していた委員会を、令和6年度は7月と2月に開催し、地域とのつながりをより深めていくためのご助言を賜りました。

- ・第1回 7月17日（水）13：30～
- ・第2回 令和7年2月14日（金）13：30～

教職員資質向上への取り組み（初任者研修、学内研修、中部私学研修、中堅研修など）

教育を取り巻く環境が大きく変化する中で学校教育に対する期待に応えるには、教員の資質能力向上とスキルアップが必要なため、それに対応できうる教員研修への参加を推進しています。また、多種多様な資質能力を持つ人材の集まりである教員集団が連携することにより充実した教育活動が展開できることから、その能力の保持のためにも研修は重要と考えられます。

令和6年度は、探究活動に関する研修も行いました。今後でもできる限り外部の講習会や研修会、出前授業に積極的に参加し、学校内では得ることのできない情報を吸収することで、新人からベテランまで教員としての資質向上に役立てていきたいと考えています。

●初任者学内研修

令和6年度 初任者研修 年間計画表		
	研修テーマ	実施日時
1	初任研OR	4月 8日(月) 15:00～15:50
2	高田の歴史と建学の精神について	4月10日(水) 14:40～15:30
3	学校法人の規定について	4月10日(水) 15:40～16:30
4	コンプライアンス (サービス規程と教育法規)	4月18日(木) 16:00～16:50
6	生徒指導	4月22日(月) 15:40～16:30
5	教職の実務 中・高の教務	4月25日(木) 16:30～17:20
7	進路指導	4月26日(金) 15:40～16:30
8	人権教育推進	4月30日(火) 15:40～16:30
9	学校の危機管理	5月10日(金) 15:40～16:30
10	特別支援教育・カウンセリング	6月7日(金) 15:40～16:30

●三重県私学教育研修会(第1回ミドルリーダー研修会)

8月6日(火) 高田本山専修寺にて 3名参加

●私立学校初任者研修中京地区研修会

8月20日(火)～8月22日(木) 名古屋ガーデンパレスにて 3名参加

●第57回中部地区私学教育研修会(長野大会)

9月19日(木)～9月20日(金) 松本大学にて 4名参加・うち1名が研究発表

●私立学校中堅教員研修会

10月11日(金)～10月12日(土) 西日本兵庫会場にて 1名参加

●三重県私学教育研修会(第2回ミドルリーダー研修会)

11月 7日(木) 三重私学青少年会館にて 4名参加

【探究活動に関する研修】

●探究講演会「伴奏者としての教員スキル」

4月15日(月) 全職員参加

●日本生活科・総合的学習教育学会 三重支部 夏の学習合宿

8月 2日(土)～8月3日(日) 津市榊原小学校にて 5名参加

●探究研修会(模擬探究Ⅰ)

11月25日(月) 3年コース所属以外の教員参加

●探究研修会(模擬探究Ⅱ)

12月16日(月) 3年コース所属教員参加

生徒募集活動

高田中・高等学校公開イベント

学びのひろば in 高田（小学校4・5年生対象）

地域交流事業の一つとして、小学生（4・5年生）を対象とした公開講座「学びのひろば in 高田」を年2回開催します。様々な分野に興味関心を持つ児童たちと探究する楽しさを共有しながら、

本校の魅力や情報の発信にも努めています。8月25日（日）は95名の児童が参加しました。国語オリンピックでは、54文字で各自が物語を作り、その中の優れたもの5点について、皆で講評し金賞を決めました。54文字という決して多くない文字数で自由な発想により物語を短時間で仕上げていることに感心しました。講座の方では、児童たちは積極的にコミュニケーションをとりあってゲームの必勝法を考えたり、リズムによって音楽を楽しんだりしていました。

学びのひろば in 高田		
日時	8月25日（日）	2月11日（火・祝）
テーマ	①たかだ夏季国語オリンピック 「頂点を目指せ！物語王決定戦」 ② 算数「楽しい算数教室」 ③ 音楽「音楽を楽しもう」	① たかだ冬季理科オリンピック 「スーパーサイエンス博士に挑め！」 ② 英語「Let's Enjoy English！」 ③ 家庭「食事のマナー」
定員	104名	100名



中学校入試説明会

本年度は、9月22日（日）に、小学6年生の児童とその保護者を対象とした「中学校入試説明会」を開催し、230組の家族に参加していただきました。学校概要や来年度の入試説明に加え、各教科からの過去問題解説等も含め、本校中学入試の説明を行いました。また、全体会終了後、希望者に対して、中学校生徒会役員メンバーおよび教員の案内により「校内見学ツアー」を実施しました。

また今年度は、上記の中学校入試説明会に参加できなかった方対象に、小規模の入試説明会を実施しました。定員もすぐに埋まってしまったので、次年度以降また同じような機会を複数回設けようと思います。

その他の生徒募集活動としては、広くマスコミを利用した広報活動や、塾を対象とした説明会を積極的に実施し、各地域で開催される私立中学展にも参加し、ピーアールに努めています。

高等学校生徒募集

●中学校訪問等

各中学校で行われる入試説明会や市や塾等主催の説明会や進路フェスに参加し、教員が各中学校を訪問し受験生と保護者に対し、入試や本校の教育内容について最新の情報を詳細に説明しています。

●学校見学会

- ・ 8月24日（土） 1, 484名の受験生と保護者が参加

申し込みは、1週間ほどで満席となり、大変人気のイベントとなっています。生徒達の雰囲気を見ていただくために部活動での実際の活動を見ていただくだけでなく、全体会（講堂）では、在校生や卒業生の話として生徒達が高田高校の生活や実体験を対談形式で話したり、ボランティアスタッフとして120名の生徒達が校内を案内したりとよりリアルに高田高校を感じていただく工夫をしています。

●個別見学会

- ・ 第1回 10月19日（土）開催 定員200名
- ・ 第2回 11月 2日（土）開催 定員200名
- ・ 第3回 11月16日（土）開催 定員200名 合計558名の受験生と保護者が参加

どちらも本校の良さを理解していただけるよう、詳しい学校説明や校内見学・部活動見学個別相談等を行っています。

なお、経済的不安を抱えられている家庭については、国や県の就学支援制度などを活用することで、安心して教育が受けられる体制を整えていることをアピールしています。



施設設備の整備事業実績

教職員駐車場出入口改修工事

施工業者 : (有)松村土木
施工費用 : 1, 188, 000円
施工時期 : 7月23日（火）～8月3日（土）



校内放送設備改修工事

施工業者 : 辻井電気設備
施工費用 : 19, 800, 000円
施工時期 : 7月23日（火）～8月9日（金）



ガードマンハウス新設工事（正門・北門）

施工業者 : (株) 辻工務店
施工費用 : 1, 199, 000円
施工時期 : 8月7日(水)～11日(日)



生徒用シューズロッカー購入（2号館：17台、5号館：12台）

購入業者 : 愛知(株)
購入費用 : 1, 584, 000円
購入時期 : 8月7日(水)



第1体育館スクリーン設置工事

施工業者 : (株) 松本無線音響設備
施工費用 : 1, 650, 000円
施工時期 : 12月2日(月)～6日(金)



プロジェクター購入（第1体育館：2台）

購入業者 : (株) シーオーエー
購入費用 : 959, 200円
購入時期 : 11月15日(金)



職員室複合機入替（中央通路設置：1台）

購入業者 : 富士フィルムビジネスイノベーションジャパン(株)
購入費用 : 1, 320, 000円
購入時期 : 令和7年3月31日(月)



第1体育館バスケットゴール点検・修理

施工業者 : 長永スポーツ工業(株)
施工費用 : 462, 000円
施工時期 : 令和7年3月6日(木)



財務の概要

資金収支計算書の概要

資金収支計算書は、会計年度の教育・研究その他の活動に対応するすべての収支内容並びに支払資金の収支のてん末を明らかにしたものです。

本学苑の資金収支決算総額は4億2,871万円となり、前年度決算額と比較し5億762万円の減額となりました。

令和6年度 資金収支計算書総括

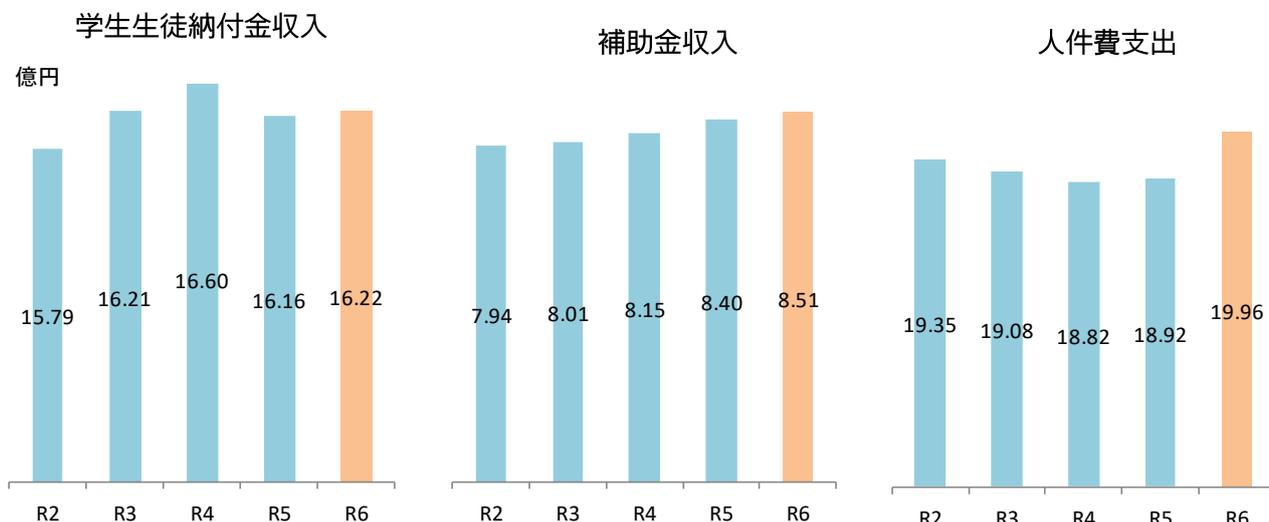
(単位：千円)

収入の部			支出の部		
科目	決算	前年比	科目	決算	前年比
学生生徒等納付金収入	1,622,499	6,320	人件費支出	1,996,120	103,479
手数料収入	43,030	▼4,045	教育研究経費支出	446,422	41,123
寄付金収入	5,806	1,521	管理経費支出	115,199	▼2,565
補助金収入	851,156	10,249	借入金等利息支出	0	0
資産売却収入	30,000	▼190,000	借入金等返済支出	0	0
付随事業・収益事業収入	36,974	11,711	施設関係支出	2,440	▼35,698
受取利息・配当金収入	13,601	2,357	設備関係支出	34,498	15,833
雑収入	208,117	40,226	資産運用支出	325,600	▼501,250
借入金等収入	0	0	その他の支出	1,104,536	▼52,223
前受金収入	252,620	▼15,025	資金支出調整勘定	△66,988	▼2,750
その他の収入	1,201,109	▼302,721			
資金収入調整勘定	△380,648	▼33,668			
当年度収入合計	3,884,264	▼473,075	当年度支出合計	3,957,827	▼434,051
前年度繰越支払資金	374,452	▼34,539	翌年度繰越支払資金	300,889	▼73,563
収入の部合計	4,258,716	▼507,614	支出の部合計	4,258,716	▼507,614

(注) △は計算書式上のマイナス表示、▼は比較上のマイナス表示(以下同じ)。

前年比は令和5年度決算との比較です。

主要科目の推移



令和6年度 資金収支計算書（短期大学）

（単位：千円）

収入の部			支出の部		
科目	決算	前年比	科目	決算	前年比
学生生徒等納付金収入	458,848	30,391	人件費支出	437,180	20,708
手数料収入	7,166	▼ 792	教育研究経費支出	153,936	1,352
寄付金収入	959	127	管理経費支出	35,034	141
補助金収入	124,928	14,540	借入金等利息支出	0	0
資産売却収入	0	0	借入金等返済支出	0	0
付随事業・収益事業収入	36,974	11,711	施設関係支出	812	▼ 36,028
受取利息・配当金収入	71	70	設備関係支出	6,264	▼ 32
雑収入	8,088	▼ 6,241	資産運用支出	0	0
借入金等収入	0	0	その他の支出	129,721	▼ 65,552
前受金収入	47,710	2,800	資金支出調整勘定	△ 14,866	1,323
その他の収入	122,233	▼ 70,938			
資金収入調整勘定	△ 50,643	3,998			
当年度収入合計	756,335	▼ 14,333	当年度支出合計	748,080	▼ 78,088
前年度繰越支払資金	40,119	▼ 27,034	翌年度繰越支払資金	50,576	10,458
収入の部合計	796,454	▼ 41,367	支出の部合計	798,656	▼ 67,631

令和6年度 資金収支計算書（中・高等学校）

（単位：千円）

収入の部			支出の部		
科目	決算	前年比	科目	決算	前年比
学生生徒等納付金収入	1,163,651	▼ 24,071	人件費支出	1,549,358	82,945
手数料収入	35,864	▼ 3,254	教育研究経費支出	292,486	39,771
寄付金収入	4,847	1,394	管理経費支出	56,245	5,279
補助金収入	726,228	▼ 4,292	借入金等利息支出	0	0
資産売却収入	0	0	借入金等返済支出	0	0
付随事業・収益事業収入	0	0	施設関係支出	1,628	330
受取利息・配当金収入	91	89	設備関係支出	28,234	16,721
雑収入	197,993	64,446	資産運用支出	0	0
借入金等収入	0	0	その他の支出	816,500	44,657
前受金収入	204,910	▼ 17,825	資金支出調整勘定	△ 41,896	▼ 1,683
その他の収入	827,914	22,248			
資金収入調整勘定	△ 330,005	▼ 37,675			
当年度収入合計	2,831,493	1,062	当年度支出合計	2,702,556	188,020
前年度繰越支払資金	211,011	▼ 526	翌年度繰越支払資金	136,048	▼ 74,963
収入の部合計	3,042,504	536	支出の部合計	2,838,603	113,057

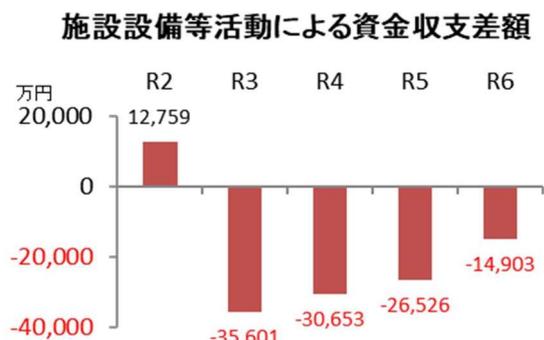
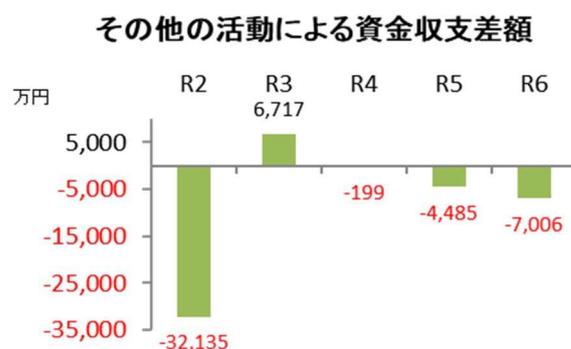
活動区分資金収支計算書の概要

活動区分資金収支計算書では、資金収支計算書の決算額を「教育活動」「施設設備等活動」「その他の活動」の三つの活動区分ごとに区分し、活動ごとの資金の流れを明らかにします。

令和6年度 活動区分資金収支計算書

(単位:千円)

科 目		決算額	前年比	科 目		決算額	前年比
教育活動による資金収支	収入			その他の活動による資金収支	収入		
	学生生徒等納付金収入	1,622,499	6,320		有価証券償還収入	30,000	▼190,000
	手数料収入	43,030	▼4,045		退職給与引当特定資産取崩収入	0	0
	特別寄付金収入	0	0		借入金等収入	0	0
	一般寄付金収入	5,806	1,521		預り金受入収入	838,164	▼13,541
	経常費等補助金収入	851,156	10,249		仮払金回収収入	25,487	▼4,342
	付随事業収入	36,974	11,711		立替金回収収入	86	▼44,156
	雑収入	208,117	40,226		修学旅行費預り資産取崩収入	74,485	6,527
	教育活動資金収入計	2,767,583	65,982		修学旅行費預り金受入収入	72,265	2,591
	支出				卒業諸費預り資産取崩収入	14,903	203
人件費支出	1,996,120	103,479	卒業諸費預り金受入収入	14,779	▼244		
教育研究経費支出	446,422	41,123	小計	1,070,169	▼242,964		
管理経費支出	115,199	▼2,565	受取利息・配当金収入	13,601	2,357		
教育活動資金支出計	2,557,741	142,037	その他の活動資金収入計	1,083,769	▼240,606		
差引	209,842	▼76,056	借入金等返済支出	0	0		
調整勘定等	△64,309	▲53,996	有価証券購入支出	100,000	▼200,650		
教育活動資金収支差額	145,532	▼130,051	退職給与引当特定資産繰入支出	13,510	8,510		
施設設備等活動による資金収支	収入			預り金支払支出	836,428	▼14,903	
	施設設備補助金収入	0	0	仮払金支払支出	25,487	▼4,342	
	施設設備売却収入	0	0	立替金支払支出	330	▼5,033	
	第2号基本金引当特定資産取崩収入	0	0	修学旅行費預り資産繰入支出	72,265	2,591	
	施設設備拡充引当特定資産取崩収入	100,000	▼237,490	修学旅行費預り金支払支出	74,485	6,527	
	施設設備等活動資金収入計	100,000	▼237,490	卒業諸費預り資産繰入支出	14,779	▼244	
	支出			卒業諸費預り金支払支出	14,903	202	
	施設関係支出	2,440	▼35,698	長期前払金支払支出	1,646	▼8,060	
	設備関係支出	34,498	15,833	小計	1,153,834	▲215,401	
	第2号基本金引当特定資産繰入支出	0	0	借入金等利息支出	0	0	
施設設備拡充引当特定資産繰入支出	212,090	▲309,110	その他の活動資金支出計	1,153,834	▲215,401		
施設設備等活動資金支出計	249,028	▼328,976	差引	△70,064	▼25,205		
差引	△149,028	91,486	調整勘定等	0	0		
調整勘定等	△3	24,747	その他の活動資金収支差額	△70,064	▼25,205		
施設設備等活動資金収支差額	△149,031	116,233	支払資金の増減額	△73,563	6		
小計	△3,499	▼13,819	前年度繰越支払資金	374,452	▲34,539		
			翌年度繰越支払資金	300,889	▼73,563		

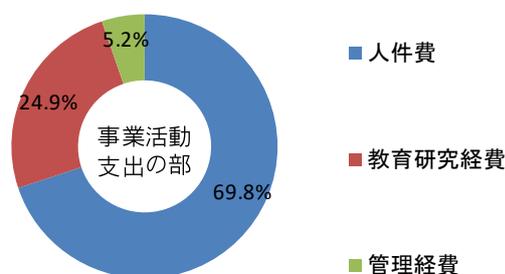
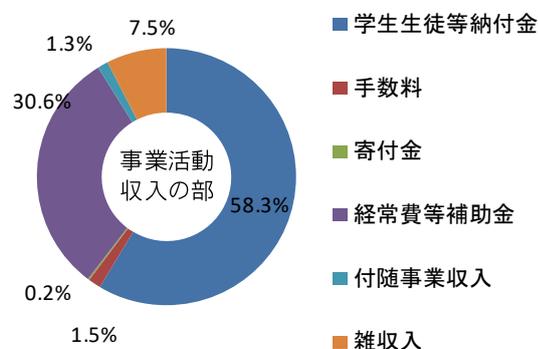


事業活動収支計算書の概要

事業活動収支計算書では、当該会計年度の諸活動に対応する事業活動収入・支出の内容及び基本金組入後の均衡の状態を明らかにします。収支を経常的なものと臨時的なものに、さらに経常的な収支を教育活動と教育活動外とに分けて把握することができます。

(単位：千円)

科 目		決算額	%	科 目		決算額	%
教育活動収入の部	事業活動収入			特別収支	収入の部		
	学生生徒等納付金	1,622,252	58.3%		資産売却差額	0	0.0%
	手数料	43,030	1.5%		その他の特別収入	248	0.0%
	寄付金	6,410	0.2%		本部負担金収入	0	0.0%
	経常費等補助金	851,156	30.6%		特別収入計	248	0.0%
	付随事業収入	36,974	1.3%		支出の部		
	雑収入	208,117	7.5%		資産処分差額	5,389	0.2%
	教育活動収入計	2,767,940	99.5%		その他の特別支出	0	0.0%
	事業活動支出の部				本部負担金	0	0.0%
	人件費	2,010,883	69.8%		特別支出計	5,389	0.2%
教育研究経費	717,039	24.9%	特別収支差額	△ 5,141			
管理経費	149,048	5.2%	〔予備費〕				
徴収不能額等	0	0.0%	基本金組入前当年度収支差額	△ 100,572			
教育活動支出計	2,876,970	99.8%	基本金組入額合計	△ 18,109			
教育活動収支差額	△ 109,031		当年度収支差額	△ 118,681			
教育活動外収入の部	収入の部			前年度繰越収支差額	△ 5,217,015		
	受取利息・配当金	13,601	0.5%	基本金取崩額	0		
	その他の教育活動外収入	0	0.0%	翌年度繰越収支差額	△ 5,335,695		
	教育活動外収入計	13,601	0.5%				
教育活動外支出の部	支出の部			(参考)			
	借入金等利息	0	0.0%	事業活動収入計	2,781,788		
	その他の教育活動外支出	0	0.0%	事業活動支出計	2,882,359		
教育活動外支出計	0	0.0%					
教育活動外収支差額	13,601						
経常収支差額	△ 95,430						



基本金について

基本金には第1号基本金から第4号基本金まで4種類の基本金があります。

第1号基本金	施設設備の整備拡充のために支出した金額であり、本年度の組入額は1,810万円でした。主な内訳は、中高校内放送設備更新、ガードマンボックス設置工事となります。
第2号基本金	施設設備を取得するため事前に組入れる金額で、本年度はありませんでした。
第3号基本金	教育・研究活動の維持向上を目的とした教育研究基金、奨学基金等の設定であり、本学苑は組入れを行っていません。
第4号基本金	学校法人の円滑な運営に必要な運転資金の額であり、今年度は検証の結果、妥当と判断されるため、組入・取崩共に行っていません。

短期大学

事業活動収支計算書

(単位：千円)

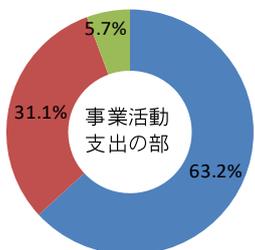
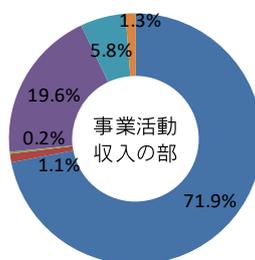
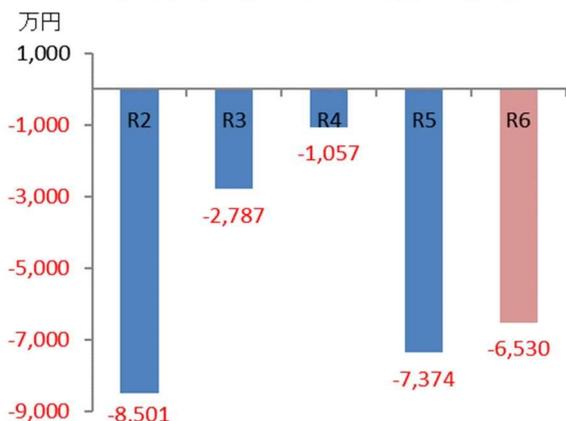
科 目		決算額	%	前年比	科 目		決算額	%	前年比
教育活動収入の部	学生生徒等納付金	458,601	71.9%	29,896	特別収入	資産売却差額	0	0.0%	0
	手数料	7,166	1.1%	▼792		その他の特別収入	248	0.0%	248
	寄付金	1,460	0.2%	▼748		本部負担金収入	0	0.0%	0
	経常費等補助金	124,928	19.6%	14,540		特別収入計	248	0.0%	248
	付随事業収入	36,974	5.8%	11,711		資産処分差額	232	0.0%	▲307
	雑収入	8,088	1.3%	▼9,291		その他の特別支出	0	0.0%	0
	教育活動収入計	637,218	100.0%	45,316		本部負担金	0	0.0%	0
	人件費	444,169	63.2%	33,941		特別支出計	232	0.0%	▲307
	教育研究経費	218,447	31.1%	3,431		特別収入差額	16		555
	管理経費	39,905	5.7%	172		〔予備費〕			0
教育活動支出の部	徴収不能額等	0	0.0%	▲674	基本金組入前当年度収支差額	△65,216		9,070	
	教育活動支出計	702,521	100.0%	36,870	基本金組入額合計	△3,167		45,039	
	教育活動収支差額	△65,303		8,446	当年度収支差額	△68,383		54,109	
	受取利息・配当金	71	0.0%	70	前年度繰越収支差額	△2,811,974		▼122,492	
	その他の教育活動外収入	0	0.0%	0	基本金取崩額	0		0	
	教育活動外収入計	71	0.0%	70	翌年度繰越収支差額	△2,880,357		▼68,444	
	借入金等利息	0	0.0%	0					
	その他の教育活動外支出	0	0.0%	0	(参考)				
	教育活動外支出計	0	0.0%	0	事業活動収入計	637,536		45,633	
	教育活動外収支差額	71		70	事業活動支出計	702,752		36,563	
経常収支差額	△65,232		8,516						

財務比率推移表（事業活動収支関係）

比 率	R4	R5	R6	全国平均	比 率	R4	R5	R6	全国平均
人件費率	64.4	69.3	69.7	66.8	学生生徒等納付金比率	75.1	72.4	72.0	73.9
人件費依存率	85.7	95.7	96.9	90.4	経常寄付金率	0.1	0.4	0.2	1.1
教育研究経費率	31.5	36.3	34.3	41.1	経常補助金率	18.2	18.6	19.6	15.7
管理経費率	5.7	6.7	6.3	11.0	減価償却額率	9.1	10.0	9.8	12.6
借入金等利息率	0.0	0.0	0.0	0.1	経常収支差額率	△1.6	△12.5	△10.2	△19.1
事業活動収支差額比率	△1.6	△12.6	△10.2	△17.1	教育活動収支差額比率	△1.6	△12.5	△10.2	△21.1
基本金組入後収支比率	101.2	122.5	110.8	127.0					

※全国平均は前年度の値

教育活動収支差額の推移



中・高等学校

事業活動収支計算書

(単位：千円)

科 目		決算額	%	前年比	科 目		決算額	%	前年比	
教育活動収入の部	学生生徒等納付金	1,163,651	54.7%	▼ 24,071	特別収入	資産売却差額	0	0.0%	0	
	手数料	35,864	1.7%	▼ 3,254		収入の部	その他の特別収入	0	0.0%	0
	寄付金	4,950	0.2%	1,477		事業活動	本部負担金収入	0	0.0%	0
	経常費等補助金	726,228	34.1%	▼ 4,292		特別収入計	0	0.0%	0	
	付随事業収入	0	0.0%	0		支出の部	資産処分差額	5,157	0.2%	▼ 521
	雑収入	197,993	9.3%	64,446		その他の特別支出	0	0.0%	0	
	教育活動収入計	2,128,686	100.0%	34,307		本部負担金	0	0.0%	0	
						特別支出計	5,157	0.2%	▼ 521	
						特別収支差額	△ 5,157		521	
						〔予備費〕			0	
事業活動支出の部	人件費	1,557,132	72.7%	83,698	基本金組入前当年度収支差額	△ 13,232		▼ 92,160		
	教育研究経費	498,593	23.3%	38,678	基本金組入額合計	△ 13,358		▼ 7,999		
	管理経費	81,128	3.8%	4,701	当年度収支差額	△ 26,591		▼ 100,159		
	徴収不能額等	0	0.0%	0	前年度繰越収支差額	△ 242,690		73,577		
	教育活動支出計	2,136,853	99.8%	127,077	基本金取崩額	0		0		
					翌年度繰越収支差額	△ 269,281		▼ 26,581		
					(参考)					
					事業活動収入計	2,128,777		34,396		
					事業活動支出計	2,142,010		126,556		
					教育活動収支差額	△ 8,167		▼ 92,770		
教育活動外収入の部	受取利息・配当金	91	0.0%	89						
	その他の教育活動外収入	0	0.0%	0						
	教育活動外収入計	91	0.0%	89						
教育活動外支出の部	借入金等利息	0	0.0%	0						
	その他の教育活動外支出	0	0.0%	0						
	教育活動外支出計	0	0.0%	0						
教育活動外収支差額	91		89							
経常収支差額	△ 8,075		▼ 92,681							

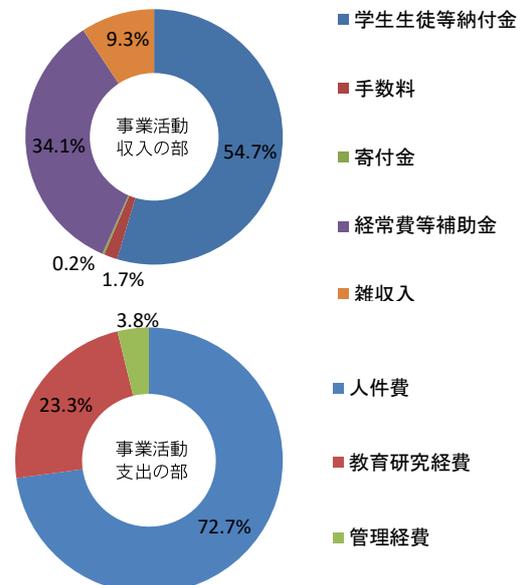
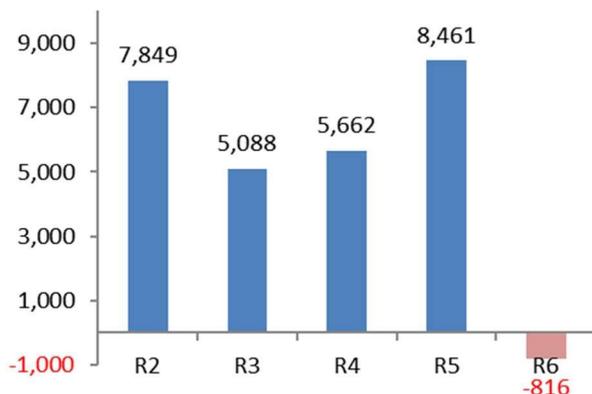
財務比率推移表（事業活動収支関係）

比 率	R4	R5	R6	全国平均	比 率	R4	R5	R6	全国平均
人件費率	71.6	70.4	73.1	63.1	学生生徒等納付金比率	57.9	56.7	54.7	53
人件費依存率	123.5	124.1	133.8	119	経常寄付金率	0.3	0.2	0.2	1.6
教育研究経費率	22.1	22.0	23.4	30.3	経常補助金率	34.5	34.9	34.1	37.2
管理経費率	3.4	3.6	3.8	6.1	減価償却額率	11.9	11.6	10.8	11
借入金等利息率	0.0	0.0	0.0	0.2	経常収支差額率	2.9	4.0	△ 0.4	0.2
事業活動収支差額比率	2.9	3.8	△ 0.6	1.9	教育活動収支差額比率	2.9	4.0	△ 0.4	△ 0.4
基本金組入後収支比率	105.6	96.5	101.3	107.7					

全国平均は前年度の値

教育活動収支差額の推移

万円



令和6年度補助金・寄付金 一覧表

(単位：千円)

補助金名	当年度	前年度	差異
	①	②	①－②
短期大学補助金 合計	124,928	110,388	14,540
国庫補助金 計	124,844	110,311	14,533
私立大学等経常費補助金	85,476	75,563	9,913
授業料等減免費交付金	39,368	34,748	4,620
地方公共団体補助金 計	84	77	7
結核健康診断予防接種費補助金	84	77	7
中・高等学校補助金 合計	726,228	730,520	△ 4,292
高等学校補助金 計	559,598	559,939	△ 341
地方公共団体補助金 計	559,598	559,939	△ 341
私立高等学校等振興補助金	546,873	548,811	△ 1,938
授業料減免補助金	6,918	43	6,875
入学金補助金	1,035	1,103	△ 68
結核健康診断予防接種費補助金	195	208	△ 13
外国人語学指導助手補助金	450	380	70
教育改革推進事業補助金	300	300	0
私立高等学校振興補助金（津市）	2,538	2,568	△ 30
私立高等学校振興補助金（鈴鹿市）	307	260	47
私立学校物価高騰対策支援補助金	982	6,267	△ 5,285
中学校補助金 計	166,630	170,581	△ 3,951
地方公共団体補助金 計	166,630	170,581	△ 3,951
私立高等学校等振興補助金	165,945	168,492	△ 2,547
私立高等学校振興補助金（鈴鹿市）	124	0	124
私立学校物価高騰対策支援補助金	561	2,089	△ 1,528
総 計	851,156	840,908	10,249

(単位：千円)

寄付金名	当年度	前年度	差異
	①	②	①－②
短期大学 寄付金 合計	209	82	127
津市ふるさと津かがやき寄付私立学校応援寄付金	209	82	127
中高等学校 寄付金 合計	1,426	1,037	389
津市ふるさと津かがやき寄付私立学校応援寄付金	1,426	1,037	389
総 計	1,635	1,119	516

貸借対照表の概要

貸借対照表は、令和7年3月31日現在の財政状態を示しています。

令和6年度 貸借対照表（総括）

（単位：千円）

科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	7,999,006	8,074,072	△ 75,066
有形固定資産	5,579,306	5,843,957	△ 264,650
土地	1,025,123	1,025,123	0
建築物	3,701,141	3,903,050	△ 201,909
構築物	501,688	563,914	△ 62,226
教育研究用機器備品	85,024	74,998	10,026
管理用機器備品	9,420	10,953	△ 1,533
図書	224,708	228,348	△ 3,640
車 輛	2,284	7,651	△ 5,368
学 苑 林	29,919	29,919	0
建設仮勘定	0	0	0
特定資産	2,371,549	2,175,949	195,600
退職給与引当特定資産	282,000	268,490	13,510
施設設備拡充引当特定資産	2,089,549	1,907,459	182,090
第2号基本金引当特定資産	0	0	0
その他の固定資産	48,150	54,166	△ 6,016
借 地 権	2,258	2,258	0
電話加入権	1,286	1,286	0
施設利用権	0	71	△ 71
ソフトウェア	15,960	21,415	△ 5,455
有価証券	13,298	13,298	0
差し入れ保証金	350	350	0
長期前払金	14,999	15,489	△ 490
流動資産	476,152	502,929	△ 26,777
現金預金	300,889	374,452	△ 73,563
未収入金	113,003	60,940	52,063
前払金	66	3,243	△ 3,177
立替金	324	80	244
修学旅行費預り資産	55,896	58,116	△ 2,220
卒業諸費預り資産	5,973	6,097	△ 124
資産の部合計	8,475,158	8,577,001	△ 101,843
固定負債	281,898	267,134	14,763
長期借入金	0	0	0
退職給与引当金	281,898	267,134	14,763
流動負債	406,346	422,381	△ 16,035
短期借入金	0	0	0
未払金	63,745	64,147	△ 402
前受金	252,620	267,645	△ 15,025
預り金	28,112	26,376	1,736
修学旅行費預り金	55,896	58,116	△ 2,220
卒業諸費預り金	5,973	6,097	△ 124
負債の部合計	688,243	689,515	△ 1,272
基本金	13,122,610	13,104,501	18,109
第1号基本金	12,950,610	12,932,501	18,109
第2号基本金	0	0	0
第4号基本金	172,000	172,000	0
繰越収支差額	△ 5,335,695	△ 5,217,015	△ 118,681
翌年度繰越収支差額	△ 5,335,695	△ 5,217,015	△ 118,681
純資産の部合計	7,786,914	7,887,486	△ 100,572
負債及び純資産の部合計	8,475,158	8,577,001	△ 101,843

注記 1. 重要な会計方針

(1) 引当金の計上基準

○徴収不能引当金・・・未収入金の徴収不能に備えるため、個別に見積もった徴収不能見込額を計上している。

○退職給与引当金

(短期大学) 退職金の支給に備えるため、期末要支給額 168,545,734円 の100%を基にして私立大学退職金財団に対する掛金の累積額と交付金の累積額との繰入調整額を加減した金額を計上している。

(中学校及び高等学校) 退職金の支給に備えるため、期末要支給額 1,048,396,970円 から三重県私学振興会より交付金相当額を控除した金額の100%を計上している。

(2) その他重要な会計方針

○有価証券の評価基準及び評価方法

移動平均法に基づく原価法である。

2. 重要な会計方針の変更等

該当無し

3. 減価償却額の累計額の合計額

7,384,604,180円

4. 徴収不能引当金の合計額

0円

5. 担保に供されている資産の種類及び額

0円

6. 翌会計年度以降の会計年度において基本金へ組入れを行うこととなる金額

2,885,300円

7. 当該会計年度の末日において第4号基本金に相当する資金を有していない場合のその旨と対策

第4号基本金に相当する資金を有しており、該当しない。

8. その他財政及び経営の状況を正確に判断するために必要な事項

(1) 有価証券の時価情報

① 総括表

(単位 円)

	当年度(令和7年3月31日)		
	貸借対照表計上額	時 価	差 額
時価が貸借対照表計上額を超えるもの	3,297,674	32,690,706	29,393,032
(うち満期保有目的の債券)	(0)	(0)	(0)
時価が貸借対照表計上額を超えないもの	1,290,649,860	1,195,960,303	△94,689,557
(うち満期保有目的の債券)	(1,270,649,860)	(1,175,994,303)	(△94,655,557)
合 計	1,293,947,534	1,228,651,009	△65,296,525
(うち満期保有目的の債券)	(1,270,649,860)	(1,175,994,303)	(△94,655,557)
時価のない有価証券	-	-	-
有価証券合計	1,293,947,534	-	-

② 明細表

(単位 円)

種 類	当年度(令和7年3月31日)		
	貸借対照表計上額	時 価	差 額
債 券	1,120,649,860	1,042,842,500	△77,807,360
株 式	3,297,674	32,690,706	29,393,032
投資信託	170,000,000	153,117,803	△16,882,197
貸付信託	-	-	-
その他	-	-	-
合 計	1,293,947,534	1,228,651,009	△65,296,525
時価のない有価証券	-	-	-
有価証券合計	1,293,947,534	-	-

財務比率推移表

(単位：%)

比 率	R4	R5	R6	全国平均	評	算式 (×100)	説 明
固 定 資 産 率	93.2	94.1	94.4	85.4	▼	$\frac{\text{固 定 資 産}}{\text{総 資 産}}$	資産構成の全体的なバランスはどうか
有 形 固 定 資 産 率	70.5	68.1	65.8	59.7	▼	$\frac{\text{有 形 固 定 資 産}}{\text{総 資 産}}$	土地・建物等の有形固定資産の構成比が資産構成上バランスがとれているか
特 定 資 産 率	22.1	25.4	28.0	20.2	△	$\frac{\text{特 定 資 産}}{\text{総 資 産}}$	長期に亘って特定の目的のために保有する金融資産の蓄積状況はどうか
流 動 資 産 率	6.8	5.9	5.6	14.6	△	$\frac{\text{流 動 資 産}}{\text{総 資 産}}$	資産構成の全体的なバランスはどうか
固 定 負 債 率	3.1	3.1	3.3	6.0	▼	$\frac{\text{固 定 負 債}}{\text{総 負 債} + \text{純 資 産}}$	長期的な負債構成のバランスと比重はどうか
流 動 負 債 率	5.4	4.9	4.8	4.6	▼	$\frac{\text{流 動 負 債}}{\text{総 負 債} + \text{純 資 産}}$	短期的な負債構成のバランスと比重はどうか
内 部 留 保 率	18.5	21.9	23.6	27.4	△	$\frac{\text{運 用 資 産} - \text{総 負 債}}{\text{総 資 産}}$	特定資産と有価証券と現金預金を合計した「運用資産」から総負債を引いた金額の総資産に占める割合はどうか
運 用 資 産 率	83.4	87.0	91.4	1.7	△	$\frac{\text{運 用 資 産} - \text{外 部 負 債}}{\text{経 常 支 出}}$	一年間の経常的な支出規模に対してどの程度の運用資産が蓄積されているか
純 資 産 率	91.5	92.0	91.9	89.4	△	$\frac{\text{純 資 産}}{\text{総 負 債} + \text{純 資 産}}$	純資産の、総負債および純資産の合計額に占める構成割合はどうか
繰 越 収 支 差 額 率	△ 59.7	△ 60.8	△ 62.9	△ 24.9	△	$\frac{\text{繰 越 収 支 差 額}}{\text{総 負 債} + \text{純 資 産}}$	繰越収支差額の、総負債および純資産の合計額に占める構成割合はどうか
固 定 比 率	101.9	102.4	102.7	95.5	▼	$\frac{\text{固 定 資 産}}{\text{純 資 産}}$	土地・建物等の固定資産に対してどの程度純資産が投下されているか
固 定 長 期 率	98.5	99.0	99.1	89.5	▼	$\frac{\text{固 定 資 産}}{\text{純 資 産} + \text{固 定 負 債}}$	自己資金のほか長期借入金で固定資産を取得する原則にどの程度適合しているか
流 動 比 率	125.8	119.1	118.2	320.5	△	$\frac{\text{流 動 資 産}}{\text{流 動 負 債}}$	1年以内に償還する流動負債に対して1年以内に現金化が可能な流動資産はどの程度用意されているか
総 負 債 比 率	8.5	8.0	8.1	10.6	▼	$\frac{\text{総 負 債}}{\text{総 資 産}}$	純資産に対する他人資金の比重はどうか
負 債 比 率	9.2	8.7	8.8	11.9	▼	$\frac{\text{総 負 債}}{\text{純 資 産}}$	他人資金である総負債が自己資金である純資産を上回っていないか
前 受 金 率	143.0	139.9	119.1	564.5	△	$\frac{\text{現 金 預 金}}{\text{前 受 金}}$	翌年度分の入学金等が現金預金の形で適切に保有されているか
退 職 給 与 引 当 特 定 資 産 保 有 率	98.9	100.5	100.0	55.5	△	$\frac{\text{退 職 給 与 引 当 特 定 資 産}}{\text{退 職 給 与 引 当 金}}$	退職給与引当金に見合う資産を特定資産としてどの程度保有しているか
基 本 金 比 率	101.0	101.3	101.4	97.1	△	$\frac{\text{基 本 金}}{\text{基 本 金 要 組 入 額}}$	基本金組入対象資産額である要組入額に対する組入済基本金の割合はどうか
減 価 償 却 比 率	54.6	56.0	56.0	58.1	～	$\frac{\text{減 価 償 却 累 計 額 (図 書 除 却)}}{\text{減 価 償 却 資 産 取 得 価 額 (〃)}}$	減価償却累計額が取得価格に対してどの程度占めているか
積 立 率	32.8	34.8	36.4	64.9	△	$\frac{\text{運 用 資 産}}{\text{要 積 立 額}}$	持続的かつ安定的な経営を継続するために必要な運用資産の保有状況はどうか

評価指標 △：高い値が良い ▼：低い値が良い ～：どちらともいえない
 全国平均は前年度の値

財産目録

(単位：千円)

一、	資	産	総	額	8,475,158
内	1.	基	本	財	5,565,347
	2.	運	用	財	2,909,810
二、	負	債	総	額	688,243
三、	正	味	財	産	7,786,914

項 目	数 量	金 額
(一) 資 産		8,475,158
1. 基 本 財 産		5,565,347
(ア) 土 地	102,865.92 ㎡	1,025,123
(イ) 建 物	41,560.74 ㎡	3,701,141
(ウ) 構 築 物	227 点	501,688
(エ) 図 書	104,518 冊	224,708
(オ) 教育研究用機器備品	18,988 点	85,024
(カ) 管理用機器備品	217 点	9,420
(キ) 車 輜	10 台	2,284
(ク) ソフトウェア	7 本	15,960
(ケ) 建設仮勘定		0
2. 運 用 財 産		2,909,810
(ア) 現金及び預金		300,889
(イ) 修学旅行費預り資産		55,896
(ウ) 卒業諸費預り資産		5,973
(エ) 未 収 入 金		113,003
(オ) 借 地 権	1 点	2,258
(カ) 電 話 加 入 権	15 基	1,286
(キ) 施 設 利 用 権	3 点	0
(ク) 差し入れ保証金		350
(ケ) 有 価 証 券	142,917.00 株他	13,298
(コ) 土 地	61,913.00 ㎡	29,919
(サ) 退職給与引当特定資産		282,000
(シ) 施設設備拡充引当特定資産		2,089,549
(ス) 第2号基本金引当特定資産		0
(セ) 長 期 前 払 金		14,999
(ソ) 前 払 金		66
(タ) 立 替 金		324
(二) 負 債		688,243
1. 固 定 負 債		281,898
(ア) 長期借入金		0
(イ) 退職給与引当金		281,898
2. 流 動 負 債		406,346
(ア) 短 期 借 入 金		0
(イ) 未 払 金		63,745
(ウ) 前 受 金		252,620
(エ) 預 り 金		89,981
(1) 職員源泉等預り金		28,112
(2) 修学旅行費預り金		55,896
(3) 卒業諸費預り金		5,973

正味財産の推移

